

(様式第10)

千大院サ第102号
令和6年10月3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人千葉大学長
横手 幸太郎

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
氏名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1
電話(043)222-7171

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」→「脳神経内科」にて診療 「内分泌内科」、「代謝内科」→「糖尿病・代謝・内分泌・老年内科」にて診療							

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」→「食道・胃腸外科」、「肝臓・胆のう・膵臓外科」にて診療 「内分泌外科」→「頭頸部耳鼻いんこう科」にて診療							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・代謝・内分泌・老年内科	2	腫瘍内科	3	食道・胃腸外科	4	肝臓・胆のう・膵臓外科	5	心療内科
6	リハビリテーション科	7	脳神経内科	8	形成外科	9	頭頸部耳鼻いんこう科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45	5	0	0	800	850

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	254	698	717.4	看護補助者	74	診療エックス線技師	0
歯科医師	8	23	27.8	理学療法士	25	臨床検査技師	89
薬剤師	62	31	87.4	作業療法士	12	臨床検査 衛生検査技師	0
保健師	0	0	0.0	視能訓練士	7	その他	0
助産師	38	0	38.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	1
看護師	1021	26	1036.9	臨床工学士	27	医療社会事業従事者	17
准看護師	0	1	1.0	栄養士	0	その他の技術員	149
歯科衛生士	1	3	4.0	歯科技工士	0	事務職員	343
管理栄養士	7	10	17.0	診療放射線技師	54	その他の職員	6

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	106	眼科専門医	11
外科専門医	86	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	11	放射線科専門医	20
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	30
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	26
産婦人科専門医	24	救急科専門医	19
		合計	402

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大鳥 精司) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

令和6年4月1日就任前 医療の質・安全管理委員会委員(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
 令和6年4月1日就任後 医療の質・安全管理委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	600 人	7 人	607 人
1日当たり平均外来患者数	1,950 人	94 人	2,044 人
1日当たり平均調剤数	入院:910 外来:36		剤
必要医師数	173		人
必要歯科医師数	6		人
必要薬剤師数	21		人
必要(准)看護師数	373		人

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	797 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	28 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	507	m ²	病床数 39 床
	[移動式の場合]	台数	2	台	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	85.71 m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	403 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷庫(ディープフリーザー)	
細菌検査室	80 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット	
病理検査室	961 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機等	
病理解剖室	74 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、切出台、固定槽、撮影装置	
研究室	718 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等	
講義室	736 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員 504 人
図書室	135 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	蔵書数 17,150 冊 程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.1	%	逆紹介率	110.9	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,819		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		31,069		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,573		人
	D: 初診の患者の数		28,020		人

1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	東京医科歯科大学にて、教授、副学長、病院長を歴任し、医師及び研究者として医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するとともに、病院管理の経験を有するため	無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		製薬企業にて、長年、医薬品・医療機器の研究開発業務に従事され、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		国立がんセンター中央病院にて、臨床検査部長、臨床試験・治験開発部長、副院長、執行役員／企画戦略局長を歴任され、現職では、医薬品や医療機器の承認審査及び安全対策に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団参事		製薬企業にて、長年、医薬品の研究開発業務に従事され、現職では、医薬品医療機器の品質、有効性及び安全性の確保及び向上のため、レギュラトリーサイエンスの推進活動に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
山崎 晋一郎	千葉県病院事業管理者		国及び地方公共団体にて、長年、厚生労働行政に従事され、法律及び医療安全に関する広い識見を有するとともに、千葉県病院事業管理者として、病院管理の経験を有するため	無	1

植村 武志	独立行政法人中小企業 基盤整備機構関東本部 千葉大亥鼻イノベーション プラザ チーフインキュベーション マネージャー		千葉大学亥鼻キャンパス内 のインキュベーション施設に おいて、先端医療分野、医 工連携分野の研究成果を 活用した起業や創業活動、 中小企業の新事業展開等 の総合的支援に従事され、 臨床研究や法律に関する 識見を有するとともに、医療 を受ける者の立場から意見 を述べることができるため	無	2
中谷 晴昭	千葉大学理事		千葉大学にて教授、副理 事、医学研究院長、理事を 歴任し、厚生労働省の審議 会委員の経験を持ち、医療 安全及び臨床研究に関する 広い識見を有するため	有	1
川瀬 貴之	千葉大学大学院社会科 学研究院教授		大学・大学院において、法 律に関する研究・教育に永 く携わり、法律の専門知識 を有し、かつ、日本生命倫 理学会に所属し、医療及び 医学研究における生命倫理 に関する識見を有するため	有	1

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

- (注)
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿(選定理由についても記載有)、 監査結果報告書を掲載している。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	26	91	非典型溶血性尿毒症症候群	1
2	筋萎縮性側索硬化症	21	92	ブラウ症候群	1
3	脊髄性筋萎縮症	5	93	先天性ミオパチー	6
4	原発性側索硬化症	1	94	筋ジストロフィー	47
5	進行性核上性麻痺	7	95	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	2
6	パーキンソン病	282	96	遺伝性周期性四肢麻痺	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	97	脊髄空洞症	28
8	ハンチントン病	5	98	脊髄髄膜瘤	1
9	神経有棘赤血球症	1	99	アイザックス症候群	3
10	シャルコー・マリー・トウス病	28	100	遺伝性ジストニア	2
11	重症筋無力症	410	101	脳表ヘモジデリン沈着症	6
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	347	102	前頭側頭葉変性症	6
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	82	103	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
14	封入体筋炎	7	104	神経細胞移動異常症	2
15	クドウ・深瀬症候群	58	105	ドラベ症候群	1
16	多系統萎縮症	27	106	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	105	107	ミオクロニー欠神てんかん	1
18	ライソゾーム病	10	108	ウエスト症候群	9
19	副腎白質ジストロフィー	3	109	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
20	ミトコンドリア病	15	110	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1
21	もやもや病	49	111	レット症候群	2
22	プリオン病	1	112	スタージ・ウェーバー症候群	4
23	HTLV-1関連脊髄症	1	113	結節性硬化症	24
24	特発性基底核石灰化症	3	114	色素性乾皮症	1
25	全身性アミロイドーシス	8	115	先天性魚鱗癬	3
26	遠位型ミオパチー	3	116	家族性良性慢性天疱瘡	3
27	神経線維腫症	48	117	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	75
28	天疱瘡	50	118	特発性後天性全身性無汗症	21
29	表皮水疱症	3	119	弾性線維性仮性黄色腫	3
30	膿疱性乾癬(汎発型)	22	120	マルファン症候群	12
31	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	121	エーラス・ダンロス症候群	3
32	中毒性表皮壊死症	1	122	ウィルソン病	3
33	高安静脈炎	50	123	低ホスファターゼ症	1
34	巨細胞性動脈炎	20	124	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	1
35	結節性多発動脈炎	15	125	クルーゾン症候群	10
36	顕微鏡的多発血管炎	63	126	アペール症候群	9
37	多発血管炎性肉芽腫症	18	127	ファイファー症候群	3
38	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	28	128	アントレー・ビクスラー症候群	1
39	悪性関節リウマチ	31	129	多脾症候群	1
40	バージャー病	4	130	無脾症候群	2
41	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	131	ウェルナー症候群	12
42	全身性エリテマトーデス	416	132	プラダー・ウィリ症候群	1
43	皮膚筋炎／多発性筋炎	162	133	ヌーナン症候群	2
44	全身性強皮症	108	134	修正大血管転位症	1
45	混合性結合組織病	43	135	完全大血管転位症	2
46	シェーグレン症候群	203	136	単心室症	2
47	成人スチル病	15	137	左心低形成症候群	3
48	再発性多発軟骨炎	7	138	三尖弁閉鎖症	1
49	ベーチェット病	172	139	ファロー四徴症	8
50	特発性拡張型心筋症	72	140	両大血管右室起始症	1
51	肥大型心筋症	111	141	アルポート症候群	1
52	拘束型心筋症	3	142	急速進行性糸球体腎炎	18
53	再生不良性貧血	50	143	一次性ネフローゼ症候群	27
54	自己免疫性溶血性貧血	13	144	紫斑病性腎炎	3
55	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	145	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
56	特発性血小板減少性紫斑病	95	146	オスラー病	29
57	血栓性血小板減少性紫斑病	2	147	閉塞性細気管支炎	3
58	原発性免疫不全症候群	43	148	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	8
59	IgA 腎症	71	149	肺胞低換気症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

60	多発性嚢胞腎	58	150	副甲状腺機能低下症	15
61	黄色靱帯骨化症	255	151	偽性副甲状腺機能低下症	6
62	後縦靱帯骨化症	122	152	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1
63	広範脊柱管狭窄症	1	153	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	13
64	特発性大腿骨頭壊死症	31	154	家族性地中海熱	25
65	下垂体性ADH分泌異常症	26	155	慢性再発性多発性骨髄炎	2
66	下垂体性TSH分泌亢進症	5	156	強直性脊椎炎	18
67	下垂体性PRL分泌亢進症	56	157	骨形成不全症	2
68	クッシング病	24	158	軟骨無形成症	3
69	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	32	159	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
70	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	64	160	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
71	下垂体前葉機能低下症	126	161	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
72	先天性副腎皮質酵素欠損症	19	162	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
73	アジソン病	2	163	遺伝性鉄芽球性貧血	1
74	サルコイドーシス	266	164	クロンカイト・カナダ症候群	1
75	特発性間質性肺炎	63	165	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
76	肺動脈性肺高血圧症	106	166	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	2
77	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	70	167	総排泄腔外反症	1
78	リンパ管筋腫症	9	168	総排泄腔遺残	5
79	網膜色素変性症	10	169	先天性横隔膜ヘルニア	17
80	パッド・キアリ症候群	4	170	乳幼児肝巨大血管腫	1
81	特発性門脈圧亢進症	6	171	胆道閉鎖症	22
82	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	111	172	IgG4関連疾患	106
83	原発性硬化性胆管炎	25	173	黄斑ジストロフィー	10
84	自己免疫性肝炎	101	174	レーベル遺伝性視神経症	1
85	クローン病	227	175	好酸球性副鼻腔炎	12
86	潰瘍性大腸炎	490	176	進行性ミオクローヌスてんかん	3
87	好酸球性消化管疾患	36	177	非ケトーシス型高グリシン血症	1
88	慢性特発性偽性腸閉塞症	1	178	遺伝性自己炎症疾患	3
89	クリオピリン関連周期熱症候群	3	179	ホモシスチン尿症	2
90	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	17			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	179
合計患者数(人)	6,533

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算1
・情報通信機器を用いた診療	・バイオ後続品使用体制加算
・医療DX推進体制整備加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料入院栄養管理体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	・データ提出加算2(イ)
・救急医療管理加算	・入退院支援加算1 ・入院時支援加算 ・総合機能評価加算
・超急性期脳卒中加算	・医療的ケア児(者)入院前支援加算
・診療録管理体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・精神疾患診療体制加算
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上) ・夜間100対1急性期看護補助体制加算 ・夜間看護体制加算 ・看護補助体制充実加算 1	・精神科急性期医師配置加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・救命救急入院料3 ・精神疾患診断治療初回加算(イを算定する場合に限る。) ・救急体制充実加算1 ・救命救急入院料 小児加算 ・早期離床・リハビリテーション加算 ・早期栄養介入管理加算
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料1 ・特定集中治療室管理料 小児加算 ・早期離床・リハビリテーション加算 ・早期栄養介入管理加算
・無菌治療室管理加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1 早期離床・リハビリテーション加算
・無菌治療室管理加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
・小児緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2 ・小児入院医療管理料 注2の加算(保育士加算) ・無菌治療管理加算2 ・養育支援体制加算
・精神科リエゾンチーム加算	<施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目>
・摂食障害入院医療管理加算	・医療情報取得加算
・医療安全対策加算1	・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)
・感染対策向上加算1 ・指導強化加算 ・抗菌薬適正使用体制加算	・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)
・患者サポート体制充実加算	・妊産婦緊急搬送入院加算
・重症患者初期支援充実加算	・がん拠点病院加算1(イ)
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・医療的ケア児(者)入院前支援加算の注2に規定する情報通信機器を用いた入院前支援協力対象施設入所者入院加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	ニコチン依存症管理料
外来栄養食事指導料の注2	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する 相談支援加算
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング 加算	こころの連携指導料(Ⅱ)
糖尿病合併症管理料	プログラム医療機器等指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	がん治療連携計画策定料
がん患者指導管理料イ	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料ロ	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料ハ	ハイリスク妊産婦連携指導料2
がん患者指導管理料ニ	薬剤管理指導料
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料1
移植後患者指導管理料 イ. 臓器移植後の場合	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料 ロ. 造血幹細胞移植後の場合	精神科退院時共同指導料2
糖尿病透析予防指導管理料	禁煙治療補助システム指導管理加算
小児運動器疾患指導管理料	歯科治療時医療管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
婦人科特定疾患治療管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
腎代替療法指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
一般不妊治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続 血糖測定器を用いる場合) 皮下連続式グルコース測定
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持 続血糖測定器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	在宅患者歯科治療時医療管理料
二次性骨折予防継続管理料3	遺伝学的検査
下肢創傷処置管理料	染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
慢性腎臓病透析予防指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
外来放射線照射診療料	BRCA1/2遺伝子検査
外来腫瘍化学療法診療料1	がんゲノムプロファイリング検査
連携充実加算	先天性代謝異常症検査
がん薬物療法体制充実加算	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
抗HLA抗体(スクリーニング検査) 抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	経気管支凍結生検法
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	精密触覚機能検査
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	画像診断管理加算1
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	遠隔画像診断
検体検査管理加算(I)	ポジトロン断層撮影
検体検査管理加算(IV)	ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
国際標準検査管理加算	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
遺伝カウンセリング加算	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	CT撮影及びMRI撮影 (CT 8台、MRI 6台)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	冠動脈CT撮影加算
時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト	血流予備比コンピューター断層撮影
胎児心エコー法	心臓MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	乳房MRI撮影加算
人工臍臓検査 人工臍臓療法	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	外来化学療法加算1
脳波検査判断料1	無菌製剤処理料
単線維筋電図	心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算 急性期リハビリテーション加算
神経学的検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算 急性期リハビリテーション加算
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料(I) 初期加算 急性期リハビリテーション加算
黄斑局所網膜電図	呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算 急性期リハビリテーション加算
全視野精密網膜電図	がん患者リハビリテーション料
コンタクトレンズ検査料1	歯科口腔リハビリテーション料2
小児食物アレルギー負荷検査	療養生活環境整備指導加算
内服・点滴誘発試験	療養生活継続支援加算
経頸静脈的肝生検	認知療法・認知行動療法1
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
CT透視下気管支鏡検査加算	医療保護入院等診療料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	内視鏡下脳腫瘍摘出術
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
硬膜外自家血注入	脳刺激装置植込術 及び脳刺激装置交換術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	角結膜悪性腫瘍切除術
腎代替療法実績加算 導入期加算3	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用 眼内ドレーン挿入術))
透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるもの)
ストーマ合併症加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
磁気による膀胱等刺激法	網膜再建術
口腔粘膜処置	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び 経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
センチネルリンパ節加算	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
皮膚移植術(死体)	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
自家脂肪注入	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
骨移植術(軟骨移植を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	センチネルリンパ節生検(併用法) 乳がんセンチネルリンパ節加算1
椎間板内酵素注入療法	センチネルリンパ節生検(単独法) 乳がんセンチネルリンパ節加算2
腫瘍脊椎骨全摘術	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
緊急穿頭血種除去術	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳血栓回収療法連携加算	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下脳腫瘍生検術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
気管支バルブ留置術	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限る。)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
同種死体肺移植術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
生体部分肺移植術	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、 胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) (高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの) (エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの)	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
胸腔鏡下弁形成術	胃瘻造設術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胸腔鏡下弁置換術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
経皮的僧帽弁クリップ術	体外衝撃波胆石破砕術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	生体部分肝移植術
経皮的中隔心筋焼灼術	同種死体肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	体外衝撃波膵石破砕術
ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室 ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下膵中央切除術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植 込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの) 及び経静脈電極抜去術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極 の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (経静脈電極の場合)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
補助人工心臓	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
同種心移植術	内視鏡的小腸ポリープ切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	コーディネート体制充実加算
腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	自己生体組織接着剤作成術
副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
同種死体腎移植術	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)
生体腎移植術	顎関節人工関節全置換術(歯科)
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	レーザー機器加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(I) 周術期薬剤管理加算
人工尿道括約筋植込・置換術	麻酔管理料(II) 周術期薬剤管理加算
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外) 埋没陰茎手術 陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	歯科麻酔管理料
精巣温存手術	放射線治療専任加算
精巣内精子採取術	外来放射線治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算(全乳房照射)
女子外性器悪性腫瘍手術(女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算を算定する場合に限る。)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算(前立腺照射)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	定位放射線治療
子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)	定位放射線治療呼吸移動対策加算(その他のもの)
胎児胸腔・羊水腔シャント術	歯科技工士連携加算2
体外式膜型人工肺管理料	歯科技工士連携加算2
輸血管理料 I	歯科技工士連携加算2
貯血式自己血輸血管理体制加算	画像誘導密封小線源治療加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
クラウン・ブリッジ維持管理料	乳幼児育児栄養指導料 (情報通信機器を用いた場合)
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	外来リハビリテーション診療料
保険医療機関間の連携による病理診断	療養・就労両立支援指導料 (情報通信機器を用いた場合)
デジタル病理画像による病理診断	がん治療連携計画策定料2 (情報通信機器を用いた場合)
病理診断管理加算2	がん治療連携管理料
悪性腫瘍病理組織標本加算	認知症専門診断管理料
口腔病理診断管理加算2	肝炎インターフェロン治療計画料 (情報通信機器を用いた場合)
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)	薬剤総合評価調整管理料 (情報通信機器を用いた場合)
看護職員処遇改善評価料69	連携強化診療情報提供料
外来・在宅ベースアップ評価料(I)	がんゲノムプロファイリング評価提供料
入院ベースアップ評価料102	在宅自己注射指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)
<施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目>	横隔神経電気刺激装置加算
ウイルス疾患指導料 (情報通信機器を用いた場合)	造血器腫瘍遺伝子検査
小児科療養指導料 (情報通信機器を用いた場合)	遺伝子相同組換え修復欠損検査
てんかん指導料 (情報通信機器を用いた場合)	染色体構造変異解析
難病外来指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	Y染色体微小欠失検査
皮膚科特定疾患指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性
心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)	細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出
高度難聴指導管理料	クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出1
アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料	遠隔連携遺伝カウンセリング
小児悪性腫瘍患者指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	植込型心電図検査
がん性疼痛緩和指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	大腸CT撮影加算
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ (情報通信機器を用いた場合)	廃用症候群リハビリテーション料(I)
外来緩和ケア管理料 (情報通信機器を用いた場合)	児童思春期精神科専門管理加算
移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合 (情報通信機器を用いた場合)	耳鼻咽喉科小児抗菌薬適正使用支援加算
移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合 (情報通信機器を用いた場合)	一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る。)
糖尿病透析予防指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	経皮的冠動脈形成術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
手術 通則5,6 区分1	パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術	母指化手術等
経皮的動脈遮断術	内反足手術等
ダメージコントロール手術	食道切除再建術等
人工授精	同種腎移植術等
胚移植術	<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分4)>
採卵術	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術(通則4に掲げる 手術を除く)
体外受精・顕微授精管理料	<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 その他の区 分)>
受精卵・胚培養管理料	人工関節置換術
胚凍結保存管理料	乳児外科対象手術
<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分1)>	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
頭蓋内腫瘍摘出術等	冠動脈及び大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの を含む。)及び体外循環を要する手術
黄斑下手術等	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠 動脈ステント留置術
鼓室形成手術等	
肺悪性腫瘍手術等	
経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術	
<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分2)>	
靭帯断裂形成手術等	
水頭症手術等	
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	
尿道形成手術等	
角膜移植術	
肝切除術等	
子宮附属器悪性腫瘍手術等	
<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分3)>	
上顎骨形成術等	
上顎骨悪性腫瘍手術等	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
房室結節リエントリー性頻拍の不整脈器質の解析	中野 正博	循環器内科	260,000	補委 文部科学省
像帽弁形成術における弁輪面積変化率による普遍的な人工弁輪サイズ決定手法の確立	佐々木 晴香	循環器内科	1,430,000	補委 文部科学省
医療データベースを用いた抗がん剤による未知の循環器合併症の発見と予防法の確立	神田 真人	循環器内科	1,170,000	補委 文部科学省
たこつば症候群心臓の心移植環境下における機能回復の可能性	加藤 賢	循環器内科	1,560,000	補委 文部科学省
心不全 Advance Care Planning外来の有効性の検討	岡田 将	循環器内科	1,430,000	補委 文部科学省
大動脈弁狭窄症に対するTAVI後及びTAV in TAV後の冠動脈閉塞リスク予測モデルの開発	北原 秀喜	循環器内科	2,210,000	補委 文部科学省
CT画像解析による重症心不全への心臓再同期療法の最適症例の抽出	高岡 浩之	循環器内科	3,770,000	補委 文部科学省
心臓超音波による局所左室仕事量解析を用いた心臓再同期療法の効果予測	江口 紀子	循環器内科	650,000	補委 文部科学省
左室内血流解析による心臓再同期療法適応の新しい評価法の開発	青木 秀平	循環器内科	3,250,000	補委 文部科学省
人工知能を用いた血管内超音波画像によるリスク予測モデルの構築	西 毅	循環器内科	780,000	補委 文部科学省
一次性たこつば症候群における遺伝的素因の探索	加藤 賢	循環器内科	2,000,000	補委 (公財)武田科学振興財団
古典的な心血管リスクを有さない急性心筋梗塞患者における潜在的危険因子の探索および予防的治療戦略の検討	齋藤 佑一	循環器内科	800,000	補委 (公財)武田科学振興財団
健康診断心電図を用いた心房細動の有病率と背景因子の研究	千葉 俊典	循環器内科	500,000	補委 (公財)ちば県民保健予防財団
循環器疾患診療実態調査(JROAD)のデータベースによる心臓サルコイドーシスの診療実態調査と二次調査に基づく診断・治療プロトコルの策定に関する研究(MYSTICS)	大門 道子	循環器内科	300,000	補委 国立循環器病研究センター
高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたベマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験	北原 秀喜	循環器内科	220,000	補委 国立循環器病研究センター
子宮頸癌のMR-only simulationを目指した合成CTの新規開発	黒川 末梨絵	放射線科	3,030,000	補委 日本学術振興会
CT新技術と正確な線量評価法の開発による新たな小児被ばく低減指標および手法の確立	服部 真也	放射線科	1,515,000	補委 日本学術振興会
Radiomics技術とMR-Linacの多種MRIを応用した予後予測法の開発	阿部 幸太	放射線科	1,043,000	補委 日本学術振興会
子宮の変位と変形に即時に対応する高磁場MRIニアックによる適応放射線治療法の開発	宇野 隆	放射線科	2,342,000	補委 日本学術振興会
MR画像誘導即時適応放射線治療中の革新的線量検証システムの確立	恒田 雅人	放射線科	2,326,000	補委 日本学術振興会
高磁場MRIニアックによる時系列画像を用いたがんの超早期予後予測バイオマーカー確立	滝嶋 葉月	放射線科	2,000,000	補委 日本学術振興会
炭酸ガス血管造影とボリドカノールを組み合わせた静脈瘤硬化療法改善	土屋 智史	放射線科	1,700,000	補委 日本学術振興会
AI組込型情報提示システムを導入した低侵襲脊椎手術支援システムの開発	折田純久	整形外科	500,000	補委 日本学術振興会
関連疾患(骨粗鬆症、変形性関節症、骨折)における疼痛関連神経の可視化の確立	成田都	整形外科	900,000	補委 日本学術振興会
骨癒合促進特化型ユニバーサルiPS血小板製剤の開発	大鳥精司	整形外科	2,500,000	補委 日本学術振興会
脳波を用いた慢性疼痛患者における認知行動療法適応予測手法の開発	清水啓介	未来医療基金	1,900,000	補委 日本学術振興会
説明可能なAIと教師なし学習AIによる脊椎疾患の新しい知見を見出す試み	牧 聡	整形外科	1,600,000	補委 日本学術振興会
患者レズトリを活用した脊柱転骨骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究(分担課題名:AI活用したOPLL/OLF単純X線診断のエビデンス創出、頸椎OPLLのAIを利用した予後予測に関するエビデンス創出)	古矢丈雄	整形外科	780,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生涯歩き続けられる社会と健康寿命延伸を実現する次世代人工股関節の革新的研究	中村 順一	整形外科	910,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
急速破壊型股関節症における疼痛機序の解明と疾患特異的疼痛治療戦略の創出	瓦井裕也	整形外科(材料部)	1,600,000	補委	日本学術振興会
バイオメカニクスに基づいた高齢者の大腿骨近位部骨折予防方法の確立	萩原茂生	整形外科	55,000	補委	ちば県民保健予防財団
有限要素解析を用いた大腿骨骨幹部骨折の荷重開始時期と荷重量の予測評価方法の開発	松浦 佑介	整形外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標も策定を推進するための研究	甲賀かをり	婦人科・周産期母性科	3,620,000	補委	厚生労働化研究費
子宮内膜症・子宮腺筋症に起因した周産期合併症の克服を目指した研究	甲賀かをり	婦人科・周産期母性科	1,200,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーに基づく絨毛性腫瘍発症・薬剤耐性の分子機序解明と臨床応用	碓井宏和	婦人科・周産期母性科	4,000,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌における尿中micorRNAによる相同組み換え修復経路異常の予測	楯 真一	婦人科・周産期母性科	1,000,000	補委	日本学術振興会
ファルマコゲノミクスによる妊娠ミネラルコルチコイド合成経路と血圧調節作用の解明	中田恵美里	婦人科・周産期母性科	600,000	補委	日本学術振興会
卵巣がん予防法開発に向けたクラミア感染例の臨床病理学的特徴とTP53変異の検索	松岡 歩	婦人科・周産期母性科	1,500,000	補委	日本学術振興会
血流豊富な妊娠組織遺残を維持する分子機構の分泌性蛋白質スクリーニングによる探索	佐藤明日香	婦人科・周産期母性科	280,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜癌における長鎖非コードRNA H19を介した発がんメカニズムの解明	金子明夏	婦人科・周産期母性科	2,880,000	補委	日本学術振興会
子宮腺筋症に対する選択的プロゲステロン受容体調節薬有効性の検討	齊藤佳子	婦人科・周産期母性科	500,000	補委	日本学術振興会
早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	忍足 俊幸	眼科	200,000	補委	厚生労働省
サイトメガロウイルスのマウス眼における線維柱帯構造変化	清水 大輔	眼科	200,000	補委	文部科学省
POEMS症候群治療における眼所見と全身症状の関係に関する研究	岩瀬 雄仁	眼科	800,000	補委	文部科学省
黄斑円孔に対する幹細胞由来網膜組織移植後の電子顕微鏡によるシナプス解析	秋葉 龍太郎	眼科	500,000	補委	文部科学省
網膜変性に対する幹細胞由来網膜組織移植後の電子顕微鏡による視機能ネットワーク解析	秋葉 龍太郎	眼科	1,500,000	補委	文部科学省
視神経縮減ラットモデルを用いた多角的アプローチによる視神経再生戦略の検討	忍足 俊幸	眼科	1,200,000	補委	文部科学省
Werner症候群患者とwrn/recq15 DKOマウスを用いた「老化バイオマーカー」の探索	横内 裕敬	眼科	1,400,000	補委	文部科学省
慢性中心性漿液性脈絡網膜症に対するレーザー照射エネルギー減量光線力学的療法の有効性及び安全性導治験	馬場 隆之	眼科	4,000,000	補委	AMED(京都大学)
高深度プロテオーム解析による増殖性硝子体網膜症の発症・進展機序	馬場 隆之	眼科	1,000,000	補委	高齢者眼疾患研究財団
免疫チェックポイント阻害剤の課題克服を目指した腫瘍特異的T細胞の解析	猪爪 隆史	皮膚科学	1,100,000	補委	文部科学省
抗PD-1抗体への獲得耐性に関わる候補分子CD109とCD276の機能解析	松澤 高光	皮膚科学	1,200,000	補委	文部科学省
IFN-gシグナル非依存的ながん免疫療法の感受性及び耐性機序の解明	川島 秀介	皮膚科学	1,700,000	補委	文部科学省
紫外線ダーモスコピー画像によるメラノーマの病巣範囲の自動決定法の開発	外川 八英	皮膚科学	1,036,076	補委	文部科学省
時空間的ミトコンドリア免疫代謝異常の解明のための検体収集	猪爪 隆史	皮膚科学	500,000	補委	文部科学省
進行期のメラノーマ患者に生じる白斑における浸潤リンパ球の腫瘍反応性と性質、利用可能性の検証	猪爪 隆史	皮膚科学	1,249,000	補委	日本白斑学会
細胞外ATP受容体P2RX7シグナルによる腫瘍得意的T細胞の機能増強効果の検証	猪爪 隆史	皮膚科学	1,000,000	補委	令和5年度医療・医薬アーリーシーズ研究助成
前立腺癌の去勢抵抗性増殖を起すFAK-YAP経路を活性化する新規GPCRの探索	五島 悠介	泌尿器科	600,000	補委	日本学術振興会
尿路上皮癌治療耐性に関与するスーパーエンハンサーの同定とマスター遺伝子の探索	加藤 繭子	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会
HOXC8を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療法の確立	黒住 顕	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌におけるAR依存性を軸としたエピジェネティックな治療抵抗性獲得機構の解明	佐藤 広明	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
残尿・排尿機能に注目した尿路上皮癌膀胱内再発の病態解明と新規予防法の開発	佐塚 智和	泌尿器科	900,000	補委	日本学術振興会
補体レクチン経路が尿管結石形成に与える影響の解析	若井 健	泌尿器科	600,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
網羅的シストローム解析に基づくAR非依存性前立腺癌の分子病態解明	石川 隆	泌尿器科	600,000	委 日本学術振興会
網羅的シストローム解析に基づくAR非依存性前立腺癌の分子病態解明	金坂 学斗	泌尿器科	1,500,000	補 委 日本学術振興会
エピゲノム修飾に基づく神経内分泌前立腺癌に対する新規治療戦略	山田 康隆	泌尿器科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
プレコンセプションケアによる男性妊孕能への影響の解析	小宮 顕	泌尿器科	1,500,000	補 委 日本学術振興会
超音波ベクターフローイメージングによる尿流動態最適化システム開発の基盤構築	加賀 勘家	泌尿器科	1,800,000	補 委 日本学術振興会
アミノ酸トランスポーターLAT1を中心とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療戦略の開発	梨井 隼菱	泌尿器科	1,200,000	補 委 日本学術振興会
アンドロゲン受容体を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の克服	市川 智彦	泌尿器科	500,000	補 委 公益財団法人 山口 内分泌疾患研究振興 財団
AIを用いた骨盤内リンパ節郭清の客観的強度評価の実現	佐塚 智和	泌尿器科	500,000	補 委 公益財団法人 内視 鏡医学研究振興財団
ゲノム編集技術を用いた癌横断的な合成致死遺伝子のスクリーニングシステムの構築	五島 悠介	泌尿器科	3,000,000	補 委 公益財団法人 持田 記念医学薬学振興財 団
治療抵抗性前立腺癌に対するDNAメチル化を起点とした併用療法 の探索	山田 康隆	泌尿器科	2,000,000	補 委 一般社団法人 日本 泌尿器科学会
進行前立腺癌に対する新規Theragnostic targetの開発	山田 康隆	泌尿器科	2,000,000	補 委 公益財団法人 アステ ラス病態代謝研究会
神経内分泌前立腺癌におけるDNAメチル化異常の解明	山田 康隆	泌尿器科	2,000,000	補 委 公益財団法人 上原 記念生命科学財団
PSMA標的治療不応腫瘍に対する新規治療戦略の開発	山田 康隆	泌尿器科	1,000,000	補 委 公益財団法人 前立 腺癌研究財団
進行前立腺癌におけるPSMA標的治療不応腫瘍に対する新規治療 戦略の確立	山田 康隆	泌尿器科	3,000,000	補 委 日本新薬株式会社
成人ならびに小児における稀少未診断疾患に対する診断プログラ ムの開発に関する研究	市川 智彦	泌尿器科/遺伝子診 療部	4,000,000	補 委 AMED
鼻副鼻腔原発の粘膜型悪性黒色腫の免疫ゲノム解析および重粒 子線の影響解明	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,170,000	補 委 日本学術振興会
NKT細胞免疫系アプローチを用いたアレルギー性鼻炎に対するワク チン療法の開発	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,170,000	補 委 日本学術振興会
人工知能を用いた高精度LPRD診断支援システムの開発 研究課題	鈴木 猛司	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,300,000	補 委 日本学術振興会
シングルセル解析からつなげる舌下免疫療法の作用機序の解明	飯沼 智久	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
ダニアレルギー性鼻炎の新規診断法と舌下免疫療法の効果に関す るバイオマーカーの確立	新井 智之	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
α-galcerシートとNKT細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎の新 規治療法	栗田 惇也	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	910,000	補 委 日本学術振興会
鼻ポリープに常在する特殊なメモリーT細胞に着目した好酸球性副 鼻腔炎の病態解明	米田 理葉	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
DNAメチル化異常特性とHPV感染による中咽頭癌の層別化と発癌 機構の解明	中川 拓也	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	650,000	補 委 日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌・スーパーエンハンサー解析に基づく抗癌剤耐 性機構の解明	吉川 直子	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	910,000	補 委 日本学術振興会
HNSCCにおけるTLSとstem-like T細胞の相互作用の解明 研究課題	三田 恭義	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
網羅的脳MRI解析を用いた巨脳症性疾患の予後予測のための画像 バイオマーカーの探索	塩浜 直	小児科	1,138,053	補 委 文部科学省
川崎病患者に対する免疫調節療法の最適な適応基準を見いだす 探索的研究	濱田 洋通	小児科	6,807,691	補 委 日本医療研究開発機 構
アジアにおける川崎病の国際的ネットワークによる国際共同臨床研 究	濱田 洋通	小児科	320,000	補 委 一般社団法人日本川 崎病学会公認研究
Gorlin症候群における骨代謝異常の分子的病態解明	藤井克則	小児科	1,300,000	補 委 文部科学省
腸内細菌叢・血清解析によるアレルギー疾患での腸管バリア機能関 連バイオマーカー探索	山出史也	小児科	1,636,711	補 委 文部科学省
小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明と耐性を誘 導する治療法の開発	山本健	小児科	1,200,000	補 委 文部科学省
小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD 併用による新規経口免疫療法の開発	山本健	小児科	2,000,000	補 委 ニッポンハム食の未来 財団法人
重症牛乳アレルギー患者に対するビタミンD摂取併用経口免疫療法 の開発	山本健	小児科	1,500,000	補 委 2023年度牛乳乳製品 健康科学学術研究
新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症の新規診断技術開発を目指した アレルギー特異的T細胞の同定方法の研究	山本健	小児科	500,000	補 委 JSAWAO2020記念研 究助成プログラム

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Myl9-CD69経路を介した川崎病および自己免疫疾患による血管炎候群の発症機序の解明	山本健	小児科	1,000,000	補委	JB川崎病奨励研究費
閾値下せん妄の病態解明と新たなせん妄予防プロトコルの効果検証	長谷川 直	精神神経科・緩和ケアセンター	2,990,000	補委	文部科学省
抗精神病薬による薬剤耐性の予防法およびドパミン過感受性精神病解除法の探索	小田 靖典	精神神経科	1,560,000	補委	文部科学省
オキシトシン-GABAパルスウェイに着目した最難治統合失調症の病態解析	金原 信久	精神神経科	1,300,000	補委	文部科学省
医療観察法鑑定入院における付添人と医療者との連携方法とその効果検証に関する研究	椎名 明大	精神神経科	1,430,000	補委	文部科学省
統合失調症の自閉症的特性/オキシトシン/バソプレシンに着目した治療反応性の検討	仲田 祐介	精神神経科	1,430,000	補委	文部科学省
心理的苦悩(ERP)と不快記憶のバイオマーカーに基づく難治性気分障害の病態解明	木村 敦史	精神神経科	1,820,000	補委	文部科学省
退院後の地域生活を見据えた切れ目ない診療モデルの普及と地域生活支援体制の構築に向けた研究	新津 富央	精神神経科	1,080,000	補委	厚生労働省
退院後の地域生活を見据えた切れ目ない診療モデルの普及と地域生活支援体制の構築に向けた研究	伊豫 雅臣	精神神経科	5,185,000	補委	厚生労働省
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究	椎名 明大	精神神経科	300,000	補委	厚生労働省
自殺ボリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	新津 富央	精神神経科	300,000	補委	AMED
心的外傷後ストレス障害に対するイフェンプロジルの有効性と睡眠の質評価	佐々木 剛	こどものこころ診療部	1,040,000	補委	文部科学省
血液由来試料の解析と縦断データに基づく、こどもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化	佐々木 剛	こどものこころ診療部	1,500,000	補委	AMED
千葉県子どもの心の診療ネットワーク事業	佐々木 剛	こどものこころ診療部	7,800,000	補委	千葉県
子ども抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受領システム整備-KOKOROBOと子どもの精神疾患レジストリ連携-	佐々木 剛	こどものこころ診療部	5,600,000	補委	いのち支える自殺対策推進センター
癌関連collagenを標的とした新たな治療抵抗性の克服を目指す日米共同研究	鶴澤 一弘	歯科顎口腔外科	7,150,000	補委	文部科学省
癌抑制型人工合成環状RNAによる癌進展抑制メカニズムの解明と創薬の開発	笠松 厚志	歯科顎口腔外科	5,980,000	補委	文部科学省
Heterogeneityに着目した口腔癌抗癌剤耐性機構の解明と制御薬の開発	坂本 洋右	歯科顎口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省
LH2-Colをターゲットとする免疫チェックポイント耐性克服療法の開発	中嶋 大	歯科顎口腔外科	1,170,000	補委	文部科学省
CRISPR/Cas9ノックアウトスクリーニングによる放射線耐性メカニズムの同定	伊豫田 学	歯科顎口腔外科	1,430,000	補委	文部科学省
血小板活性化因子受容体PAFRを介した抗癌剤に対する新規効果増強療法の開発	小山 知芳	歯科顎口腔外科	1,430,000	補委	文部科学省
抗癌剤耐性スーパーエンハンサーによるコラーゲンバリアの解明と制御薬の開発	齋藤 智昭	歯科顎口腔外科	1,560,000	補委	文部科学省
scRNA-seq解析による癌細胞と癌関連ECMの両方に着目した癌細胞の転移制御機構の解明	宮本 勲	歯科顎口腔外科	1,040,000	補委	文部科学省
癌促進型環状RNAの口腔癌における癌進展メカニズムの解明	大和地 正信	歯科顎口腔外科	1,820,000	補委	文部科学省
口腔扁平上皮癌・機能性RNA分子の時間的階層性解析に基づく治療標的分子の探索	駒 綾香	歯科顎口腔外科	2,080,000	補委	文部科学省
コラーゲン水酸化酵素LH2による新たな創傷治癒メカニズムの解明	野崎 龍之介	歯科顎口腔外科	2,470,000	補委	文部科学省
頭頸部放射線治療で引き起こされる口腔乾燥症に対する自家唾液腺細胞移植法を用いた唾液腺機能再生治療の開発	笠松 厚志	歯科顎口腔外科	33,800,000	補委	日本医療研究開発機構
マスク換気困難のメカニズムの解明とマスク人工呼吸法の改善の研究	雨宮 めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,459,879	補委	日本学術振興会
呼吸困難感に対するオピオイドを用いた症状緩和プロトコル確立	田口 奈津子	麻酔・疼痛・緩和医療科	385,707	補委	日本学術振興会
スガマデクス投与による声門狭窄発生のメカニズム:ランダム化比較試験	石橋 克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	891,605	補委	日本学術振興会
咽頭浮腫と喉頭浮腫を区別可能なカプリークテスト(CLP)の開発と臨床応用	山田 高之	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,676,589	補委	日本学術振興会
ウェアラブル端末を用いた患者のADL客観的評価を慢性疼痛治療指標とする試み	高井 啓有	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,010,910	補委	日本学術振興会
ウイルス感染症後遺症による神経炎の分子機構の解明	神 久予	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,291,470	補委	日本学術振興会
麻酔下成熟マウスにおけるセボフルラン誘発性gaspigの体温変化	表地 弘希	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,600,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
による影響の検討	茶地 紗子	科	1,000,000	委 日本学術振興会
術中高二酸化炭素血症の周術期心筋傷害発症予防効果に関する研究	孫 慶淑	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,900,000	補委 日本学術振興会
経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発	樋口佳則	脳神経外科	160,000	補委 日本学術振興会
LOCI法を用いた新規グリオーマ血清診断自己抗体マーカーの確立	松谷智郎	脳神経外科	1,870,000	補委 日本学術振興会
シングルセル解析から捉える下垂体神経内分泌腫瘍の多様性分子機構に関する基盤的研究	堀口健太郎	脳神経外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
安静時fMRIを用いた脳腫瘍患者の脳内ネットワークの機能的結合の解析	廣野誠一郎	脳神経外科	150,000	補委 日本学術振興会
脳梗塞に対する血清抗体マーカーによる発症予測と病型診断	吉田陽一	脳神経外科	270,000	補委 日本学術振興会
ロングリード次世代シーケンサーを用いた髄液リキッドバイオプシーの確率と臨床応用	足立明彦	脳神経外科	2,100,000	補委 日本学術振興会
肺癌術後合併症予防のための腸内及び気道マイクロバイオームの解析	鈴木 秀海	呼吸器病態外科学	500,000	補委 ちば県民保健予防財団
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	鈴木 拓児	呼吸器内科	3,900,000	補委 日本学術振興会
肺高血圧症・肺線維症病態進展におけるマクロファージプログラミング	須田 理香	呼吸器内科	1,800,000	補委 日本学術振興会
呼吸器疾患予後予測システムの開発 新型コロナウイルス感染症から慢性進行性疾患まで	川田 奈緒子	呼吸器内科	500,000	補委 日本学術振興会
CD26/DPP-4を標的とした肺線維症の新規治療戦略確立に向けた分子基盤の解明	川崎 剛	呼吸器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
急性肺障害における骨髄由来間葉系幹細胞エクソソームの治療応用可能性の検討	内藤 亮	呼吸器内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
異常ミトコンドリアが紡ぐ抗腫瘍免疫応答の本態解明	池田 英樹	呼吸器内科	800,000	補委 日本学術振興会
1細胞空間遺伝子発現による難治性呼吸器疾患に対する肺マクロファージ移植機構の解明	伊狩 潤	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
内皮血球転換を応用した難治性呼吸器疾患における革新的ワクチン療法の開発	関根 亜由美	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
EGFR-TKI後の治療残存腫瘍における免疫微小環境の理解と抗腫瘍免疫記憶誘導への挑戦	下村 巖	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
化学放射線療法を受ける非小細胞肺癌患者におけるILAが及ぼす影響の検討	齋藤 合	呼吸器内科	1,800,000	補委 日本学術振興会
Deep phenotyping統合解析を用いた肺動脈性肺高血圧症の新規治療開発	重田 文子	呼吸器内科	700,000	補委 日本学術振興会
原発性肺癌における超音波気管支鏡ガイド下針生検におけるフランシオン針の有用性を検討するランダム化前向き研究	鹿野 幸平	呼吸器内科	500,000	補委 (公財)ちば県民保健予防財団
神経芽腫における抗腫瘍免疫抑制機序解明と新規免疫療法の開発	吉澤比呂子	小児外科	1,500,000	補委 日本医療研究開発機構
腸管神経系異常疾患の病態における腸管免疫系の関与	文田貴志	小児外科	1,200,000	補委 日本医療研究開発機構
網羅的エピゲノム解析とゲノム編集技術を用いた肝芽腫の新規治療候補遺伝子の同定	工藤 渉	小児外科	1,300,000	補委 日本医療研究開発機構
小児短腸症候群患者の腸管順応における腸内細菌叢がもたらす役割の解明	川口雄之亮	小児外科	1,300,000	補委 日本医療研究開発機構
希少難治性消化器疾患の長期的QOL 向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	菱木知郎	小児外科	300,000	補委 厚生労働省
膵・胆管合流異常を背景とする胆管癌発生の分子機構解明	菱木知郎	小児外科	1,000,000	補委 日本医療研究開発機構
神経芽腫に対する抗GD2抗体及びiPS細胞由来NKT細胞を用いた免疫療法の開発	西村雄宏	小児外科	1,200,000	補委 日本医療研究開発機構
先天性横隔膜ヘルニア患児の臍帯組織を用いた網羅的エピゲノム解析による原因探索	武之内史子	小児外科	1,300,000	補委 日本医療研究開発機構
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	照井慶太	小児外科	100,000	補委 厚生労働省
インドシアニングリーン修飾リボソームを用いた小児肝がん新規治療法の確立	小松秀吾	小児外科	800,000	補委 日本医療研究開発機構
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	桑原 聡	脳神経内科	6,460,000	補委 厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	三澤 園子	脳神経内科	800,000	補委 厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	鶴沢 顕之	脳神経内科	400,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
運動失調症の医療水準、患者のQOLの向上に資する研究班	桑原 聡	脳神経内科	700,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	桑原 聡	脳神経内科	800,000	補委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	鶴沢 顕之	脳神経内科	60,000	補委	厚生労働省
脳機能画像による神経障害性疼痛の可視化と定量的評価システムの確立	桑原 聡	脳神経内科	6,600,000	補委	日本学術振興会
マルチモーダル脳機能画像によるパーキンソン病認知機能の包括的評価システム確立	平野 成樹	脳神経内科	1,700,000	補委	日本学術振興会
MuSK抗体陽性重症筋無力症に対する標的抗原Fc融合タンパクを用いた革新的治療法開発	鶴沢 顕之	脳神経内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
miR-145を標的とした血液脳関門破壊防止による多発性硬化症の革新的治療法開発	柘田 大生	脳神経内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
プロテアソーム阻害による形質細胞を標的とした重症筋無力症の革新的治療法開発	安田 真人	脳神経内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
シングルセルRNA解析を用いた重症筋無力症の分子病態解明	赤嶺 博行	脳神経内科	2,100,000	補委	日本学術振興会
疾患レジストリ・バイオバンクを用いたCIDPの遺伝子バイオマーカーの確立	青墳 佑弥	脳神経内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
ギラン・バレー症候群における補体プロファイルの網羅的解析による個別化治療の開発	中村 圭吾	脳神経内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳マイクロソフィジオリジカルシステムズ:脳疾患の生体模倣と創薬研究への応用	柘田 大生	脳神経内科	450,000	補委	日本学術振興会
診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発:汎用化に向けた多施設共同研究	杉山淳比古	脳神経内科	40,000	補委	日本学術振興会
新規発見ノド抗原に基づいたノド抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎/中枢末梢連合脱髄症の診断基準・診療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出とバイオバンク・レジストリ構築	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委	日本医療研究開発機構
運動失調症の治療法開発を見据えた病型別前向き自然歴・バイオマーカーの確立	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委	日本医療研究開発機構
抗plexin D1抗体及び新規発見抗neuropil抗体陽性アトピー性脊髄炎・自己免疫性神経障害性疼痛の新診療ガイドライン作成のためのエビデンスとレジストリ構築	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委	日本医療研究開発機構
長期寛解を目指した革新的重症筋無力症治療薬の開発	桑原 聡	脳神経内科	3,800,000	補委	日本医療研究開発機構
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	平野 成樹	脳神経内科	3,700,000	補委	日本医療研究開発機構
安静時脳機能画像と脳血流変化に着目した慢性片頭痛の定量的評価システムの構築	柘田 大生	脳神経内科	3,000,000	補委	公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団
敗血症における細胞外マトリックスタンパク質の機能解明と革新的治療の創出	栗田 健郎	救急科・集中治療部	1,200,000	補委	日本学術振興会
A novel treatment for REBOA complications: Hydrogen gas inhalation therapy to alleviate oxidative stress due to ischemia-reperfusion injury	松村 洋輔	救急科・集中治療部	4,100,000	補委	日本学術振興会
網羅的タンパク質解析を用いた心停止/心停止後症候群に関わる新規物質の発見	今枝 太郎	救急科・集中治療部	400,000	補委	日本学術振興会
急性腸間膜虚血における新規biomarkerの開発・検証	柄澤 智史	救急科・集中治療部	1,200,000	補委	日本学術振興会
Mitigation of the cytokine storm with blood purification induced by the ischemia-reperfusion injury: A novel treatment for REBOA complications	林 洋輔	救急科・集中治療部	300,000	補委	日本学術振興会
敗血症性DICにおけるCD69-Myl9/12システムの関与	宮内 清司	救急科・集中治療部	1,000,000	補委	日本学術振興会
重症急性膵炎におけるCD 69-Myl9/12システムの関与について	大村 拓	救急科・集中治療部	1,000,000	補委	日本学術振興会
CRT測定条件の標準化と臨床的有用性の確立および高精度CRT測定装置の開発	齋藤 大輝	救急科・集中治療部	900,000	補委	日本学術振興会
敗血症の遺伝的素因の詳細解析と検証基盤構築	中田 孝明	救急科・集中治療部	4,000,000	補委	日本学術振興会
重症急性膵炎におけるclaudin2の機能解析と腸管透過性の制御による治療への応用	石田 茂誠	救急科・集中治療部	1,400,000	補委	日本学術振興会
オートファジーを介した腸管恒常性の制御による敗血症治療への応用	大網 毅彦	救急科・集中治療部	3,500,000	補委	日本学術振興会
ICTとAIを活用した患者の病院間搬送支援システムの構築研究	中田 孝明	救急科・集中治療部	3,300,000	補委	厚生労働科学研究費
AI救急予測アルゴリズムの実用化を目指した検証の研究開発	大島 拓	救急科・集中治療部	1,320,000	補委	日本医療研究開発機構
転写因子Hivep3による骨芽細胞制御機構と頭蓋顔面変形症への関与	新井 美波	形成・美容外科	1,341,707	補委	日本学術振興会
冷却刺激誘導ベージュ(beige)脂肪細胞を用いた新しい脂肪移植法	三川 信之	形成・美容外科	1,300,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
の確立	二ノ井 信之	形成・美容外科	1,500,000	日本学術振興会
慢性創傷における血小板・マクロファージの相互作用の解析と細胞治療への応用	小坂 健太郎	形成・美容外科	1,200,000	日本学術振興会
皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発	窪田 吉孝	形成・美容外科	4,500,000	日本学術振興会
リンパ管内皮細胞の再生と誘導による革新的皮膚抗老化治療の開発	秋田 新介	形成・美容外科	3,400,000	日本学術振興会
拠点病院集中型のHIV診療から、地域分散型のHIV患者の医療・介護体制の構築	猪狩 英俊	感染症内科	12,330,000	厚生労働省
HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究	谷口 俊文	感染症内科	13,500,000	厚生労働省
DPCデータと病院医療情報システムを利用した手術部位間瀬wン章	谷口 俊文	感染症内科	1,560,000	文部科学省
臓器専門診療科入院患者を対象とした領域横断的診療支援システムの開発および効果測定	上原孝紀	総合診療科	1,300,000	日本学術振興会
DPCとタイムスタディを用いた臓器専門医のプライマリ・ケア診療可視化に基づく医師偏在指標の開発	上原孝紀	総合診療科	4,784,000	厚生労働省
診断に特化したBERTファインチューニングモデルの開発	横川大樹	総合診療科	3,380,000	日本学術振興会
自己記入式INTERMED (IMSA)日本語版の成人外来患者での信頼性と妥当性の評価	横川大樹	総合診療科	195,000	日本プライマリ・ケア連合学会
高精度な診断推論AIの実用化	上原孝紀	総合診療科	153,000	ハロラボ合同会社
令和5年度千葉県新型コロナウイルス接種後の副反応に係る専門的な医療機関運営業務委託	上原孝紀	総合診療科	2,660,000	千葉県
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	加藤直也	消化器内科	800,000	日本医療研究開発機構
高ずり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	加藤直也	消化器内科	200,000	日本医療研究開発機構
社会実装可能な人工知能を用いた画期的大腸癌深達度診断システムの開発	松村 倫明	消化器内科	400,000	日本学術振興会
パレット食道の発癌リスクの層別化を目指した内視鏡的生検組織の多面的検討	徳長 鎮	消化器内科	300,000	日本学術振興会
細胞診アーカイブスのゲノム情報;最難治癌に対する精密医療を目指して	大山 広	消化器内科	1,300,000	日本学術振興会
肝細胞癌の背景肝に蓄積したT細胞の腫瘍抗原認識に着目した機能解析	小笠原 定久	消化器内科	1,700,000	日本学術振興会
膵癌における細菌叢および真菌叢の検討	山田 俊儒	消化器内科	1,100,000	日本学術振興会
病原性ヘルパーT細胞を中心とした好酸球性食道炎と食道アカラニアの病態解明	金子 達哉	消化器内科	900,000	日本学術振興会
腸肝相関に着目した非アルコール性脂肪性肝疾患由来肝臓の腫瘍免疫制御法の創出	佐久間 崇文	消化器内科	1,600,000	日本学術振興会
進行肝臓に対する全方位型複合免疫療法の開発	加藤 直也	消化器内科	6,100,000	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎と原発性硬化性胆管炎の免疫コモンリティによる病態解明	太田 佑樹	消化器内科	1,400,000	日本学術振興会
肝細胞癌における抗腫瘍免疫活性の高い腫瘍微小環境を導く遺伝子異常の解明	神崎 洋彰	消化器内科	1,300,000	日本学術振興会
原発性硬化性胆管炎を合併した潰瘍性大腸炎の早期診断のための新規バイオマーカー探索研究	太田 佑樹	消化器内科	500,000	ちば県民予防財団
膵癌患者由来検体を用いた分子バーコード技術を駆使した好感度ゲノム解析に基づく低侵襲な膵癌早期診断法の確立	大山 広	消化器内科	500,000	ちば県民予防財団
胆膵癌の早期診断・治療薬探索のための分子バーコード技術を駆使した高感度ゲノム解析法の確立	大山 広	消化器内科	300,000	NPO法人 医療・福祉ネットワーク千葉
門脈大循環短絡路に着目した門脈肺高血圧症の病態解明および新規治療法の創出	近藤 孝行	消化器内科	3,000,000	公益在団法人持田記念医学薬学振興財団
病原性ヘルパーT細胞を中心とした好酸球性食道炎と食道アカラニアの病態解明	金子 達哉	消化器内科	300,000	猪之鼻奨学会
活性化肝星細胞指向性ドラッグデリバリーシステムを用いた肝線維化治療法の確立	中村 昌人	消化器内科	1,000,000	土屋文化振興財団
抗血栓薬内服者の大腸cold snare polypectomy に対する予防的クリップ出血抑制効果の検証	沖元 謙一郎	消化器内科	500,000	内視鏡医学研究振興財団
非アルコール性脂肪性肝疾患に対する希少糖の有効性と作用機序の評価	小暮 禎祥	消化器内科	350,000	柏戸記念財団
ゲノム解析による膵・胆管合流異常の進化系統学的発癌機序の解明	高橋 幸治	腫瘍内科	1,560,000	日本学術振興会□

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的薬の開発	滝口 裕一	腫瘍内科	700,000	補委	日本学術振興会
POEMS症候群における微小クローン同定による診断治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	1,386,443	補委	日本学術振興会
成熟B細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,100,000	補委	日本学術振興会
形質細胞シングルセルRNAシーケンスによるALアミロイドーシス網羅的遺伝子解析	竹田 勇輔	血液内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
本邦における初発急性前骨髄球性白血病に対するATRA・ATO併用分化誘導療法の確立	堺田 恵美子	血液内科	300,000	補委	日本医療研究開発機構
小児から成人を対象とする臨床試験によるT細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー探索に関する研究	堺田 恵美子	血液内科	49,400,000	補委	日本医療研究開発機構
PDX治療モデルと継続的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究	堺田 恵美子	血液内科	200,000	補委	日本医療研究開発機構
PDX治療モデルと継続的臨床検体の総合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究	堺田 恵美子	血液内科	1,650,000	補委	日本医療研究開発機構
POEMS症候群の発症機構の解明と治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	1,000,000	補委	日本血液学会
透析患者の免疫能低下における腸内細菌叢変化の寄与	若林 華恵	腎臓内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
遺伝性血管性浮腫における線溶凝固系異常の病態を発展的に解明するための研究	本田 大介	腎臓内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
ポドサイト障害抑制因子の探索と慢性腎臓病治療薬開発の試み	辰元 為仁	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
スリット膜裏打ち蛋白MAGI-2の機能解析と新規CKD治療薬の開発	浅沼 克彦	腎臓内科	5,400,000	補委	日本学術振興会
人工知能を利用した血液透析至適ドライウエイト設定システムの開発	井上 宏子	腎臓内科	2,100,000	補委	日本学術振興会
ポドサイト障害抑制因子の探索と慢性腎臓病治療薬開発の試み特異的蛋白デンドリンの機能解析	奥永 一成	腎臓内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
ウイルス感染に対する自然免疫系	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	47,255,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
気道リモデリング修復による新規喘息治療戦略の確立	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	2,600,000	補委	日本学術振興会
乾癬病態形成におけるケラチノサイト内IL-17誘導性チロシンキナーゼの役割の解析	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
アレルギー性気道炎症におけるニコチン性アセチルコリン受容体の役割の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
ILC2特異的スーパーエンハンサーの理解に基づく新規アレルギー疾患制御法の開発	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	528,000	補委	厚生労働省
マンノース受容体陽性マクロファージを標的とした大血管炎治療への挑戦	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病態形成におけるI型インターフェロンの役割と産生機構	岩本 太郎	アレルギー・膠原病内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
雌性特有の制御性T細胞の解析による新たな関節リウマチ治療戦略の構築	田中 繁	アレルギー・膠原病内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
免疫センサー局在異常による自己免疫疾患発症の遺伝学的エビデンスの構築	目黒 和行	アレルギー・膠原病内科	2,700,000	補委	日本学術振興会
若年性重症SLE患者における新規TLR7変異の同定とその発症機序の解明	目黒 和行	アレルギー・膠原病内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
新規免疫異常原因遺伝子SBNO2の活性制御分子メカニズムの解析	目黒 和行	アレルギー・膠原病内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
腸管内Akkermansia muciniphilaによるアレルギー性気道炎症制御機構の解明	伊藤 崇	アレルギー・膠原病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
気道上皮細胞の炎症記憶への介入による新規気道炎症制御法の確立	影山 貴弘	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチにおけるCXCL13産生CD4陽性T細胞の役割と分化制御機構の解明	須賀 謙介	アレルギー・膠原病内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリア残存赤血球による全身性エリテマトーデスの病態形成機構の解明	戸田 陽介	アレルギー・膠原病内科	2,200,000	補委	日本学術振興会
自己免疫疾患発症にかかわるγδT17細胞の分化増殖におけるIL-21の役割の解明	石川 絢一	アレルギー・膠原病内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導治験	横手幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	36,400,000	補委	日本医療研究開発機構
早老症ワルナー症候群の革新的治療開発	横手幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌	12,670,000	補	日本医療研究開発機構

計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒポ/YAP経路へのPin1作用と肝や脂肪組織の肥大、炎症、線維化への関与	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	400,000	日本学術振興会
4種のFoxOのインスリン抵抗性および寿命延長作用における役割の解明	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	日本学術振興会
腹部ステントグラフト術後血管イベントの早期予測システムの開発	渡邊 倫子	心臓血管外科	700,000	日本学術振興会
CFDを用いたCABGにおける中樞composite graft吻合の形態的解析	焼田 康紀	心臓血管外科	1,300,000	日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害の関するIL-11による心筋ミトコンドリア保護効果の解明	池内 博紀	心臓血管外科	1,900,000	日本学術振興会
インターロイキン-11による新規治療法の確立:投与方法とミトコンドリア保護の解明	黄野 皓木	心臓血管外科	1,000,000	日本学術振興会
CTコログラフィーにおけるテクスチャ解析を用いたスクリーニング検査の開発	栃木 透	食道・胃腸外科	780,000	日本学術振興会
胃癌腹膜播種に対する癌由来エクソソームを用いた革新的個別化治療の開発	松本 泰典	食道・胃腸外科	1,300,000	日本学術振興会
食道扁平上皮癌における長寿遺伝子サーチュインの生物学的意義解明と革新的治療の開発	大塚 亮太	食道・胃腸外科	1,100,000	日本学術振興会
消化管内視鏡を用いた縦郭内革新的手術のための消化管壁外同期可視化システムの開発	中野 明	食道・胃腸外科	700,000	日本学術振興会
がん悪液質における全身性炎症機構の解明とエクソソームを標的とした新規治療の開発	松本 泰典	食道・胃腸外科	600,000	日本学術振興会
肝内胆管癌病態形成におけるメカノトランスダクションの役割	大塚 将之	肝胆膵外科	1,950,000	日本学術振興会
肝門部領域胆管癌における肝門部の立体解剖にもとづいた新規切除可能性分類の開発	細川 勇	肝胆膵外科	260,000	日本学術振興会
大腸癌肝転移におけるHistopathological growth patternに基づいた新規治療戦略の構築	小西 孝宜	肝胆膵外科	1,430,000	日本学術振興会
大腸癌におけるRYBPを介した腫瘍制御機構の解明	森中 孝至	肝胆膵外科	1,560,000	日本学術振興会
肝胆膵領域癌におけるIRG1を介した抗炎症作用に基づく新規治療戦略	吉住 有人	肝胆膵外科	1,040,000	日本学術振興会
SEMA3Cが及ぼすHGF/c-MET経路の活性化と腫瘍進展機構の解明	富澤 聡史	肝胆膵外科	1,430,000	日本学術振興会
消化器癌の進展、転移制御におけるBAP1の機能解析	岡 義人	肝胆膵外科	1,560,000	日本学術振興会
大腸癌肝転移のTWEAK/Fn14 axisを介した腫瘍進展メカニズムの解明と新規治療薬の開発	松山 尚樹	肝胆膵外科	1,430,000	日本学術振興会
ポリコムタンパクYAF2による大腸癌の進展、転移、再発における制御機構の解明	佐藤 駿介	肝胆膵外科	1,170,000	日本学術振興会
C5-C5aR1/2 axisを標的とした腫瘍進展機構の解明と新規補体免疫賦活化療法への応用	江藤 亮太郎	肝胆膵外科	1,300,000	日本学術振興会
新規腫瘍biomarkerの測定系構築及び臨床応用に関する研究	大塚 将之	肝胆膵外科	650,000	大和証券ヘルス財団 調査研究助成金
大腸癌の発癌、進展、転移形成における新規治療ターゲットとしてのYAF2の機能解析	酒井 望	肝胆膵外科	1,000,000	大和証券ヘルス財団 調査研究助成金
拡張現実と疑似体位画像生成技術を応用した乳癌術前・術中支援システムの開発	藤本浩司	乳腺外科	2,080,000	日本学術振興会
二重機能を有する抗酸化物質による難治性乳癌に対する新たな治療戦略	高田護	乳腺外科	910,000	日本学術振興会
in vivoエストロゲン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序の解析研究	山田英幸	乳腺外科	1,300,000	日本学術振興会
医療情報データベース(MID-NET)システムの運用等に係る業務	鈴木 隆弘	企画情報部	10,840,908	厚生労働省
医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究	鈴木 隆弘	企画情報部	5,044,000	日本医療研究開発機構
NDBデータによるわが国の肺非小細胞がんに対する化学療法の実状分析	鈴木 隆弘	企画情報部	812,082	厚生労働省
医療デジタルトランスフォーメーション時代の重層的な感染症サーベイランス体制の整備に向けた研究	土井 俊祐	企画情報部	32,240,000	厚生労働省
次世代の医療情報の標準規格拡充等に資する研究	土井 俊祐	企画情報部	1,700,000	厚生労働省
デジタルツインのための先進的医療情報システム基盤の開発「D-1医療機関・ベンダー・システムの垣根を超えた医療データ基盤構築による組織横断的な医療情報収集の実現」	土井 俊祐	企画情報部	11,550,000	内閣府
データ駆動型の医療インシデント集中監視システムの開発に関する研究	土井 俊祐	企画情報部	3,640,000	日本学術振興会

計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
核小体内におけるRNA polymerase IIによるribosomal RNAの転写と癌化機構の解明	松下一之	検査部	1,200,000	補委	日本学術振興会
中央集約型と分散型の併用による医療情報共有のためのトラスト(信頼関係)の評価法	松下一之	検査部	1,102,769	補委	日本学術振興会
がん細胞のリボソーム構成タンパク質の発現解析と転写後調節への関与	松下一之	検査部	151,036	補委	日本学術振興会
1本鎖DNA/RNA選択的解析によるCOVID-19を含む感染症検査の広範な改良	西村基	検査部	2,600,000	補委	日本学術振興会
長鎖DNA解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦初のプラットフォームの開発	西村基	検査部	2,500,000	補委	日本学術振興会
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	朝比奈真由美	総合医療教育研修センター	780,000	補委	日本学術振興会
生涯学習としての患者安全:事故事例から自己研鑽をもたらす学習科学的戦略の確立	清水郁夫	総合医療教育研修センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
卒前卒後の地域医療学修を支える地域実践型指導医育成プログラムの開発と評価	山内かづ代	総合医療教育研修センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
実践的EBM能力を有する医療者養成のための教育プログラム開発とその効果検証	笠井大	総合医療教育研修センター	520,000	補委	日本学術振興会
オンライン模擬医療面接におけるmini-CEXを用いた学生評価の信頼性の検証	塚本知子	総合医療教育研修センター	520,000	補委	日本学術振興会
Proof-of-concept Study for Podoplanin-targeted Radioimmunotherapy for Glioblastoma as a New Therapeutic Option	ファティマ チョウドリヌスラット (Fatema Chowdhury Nusrat)	総合医療教育研修センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
治療タンパク質の過剰発現による細胞ストレスを回避した遺伝子治療用脂肪細胞の開発	黒田正幸	未来開拓センター	5,400,000	補委	日本学術振興会
蛋白翻訳機構に着目した動脈硬化進展における血管平滑筋細胞の新規増殖亢進機序	内田雅士	薬剤部	1,000,000	補委	日本学術振興会
持続血液濾過透析による吸着クリアランスを考慮した抗菌薬投与設計の構築	山崎伸吾	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会
薬物中枢移行性の変動を考慮した薬物療法の実施に向けた情報基盤の構築	石川雅之	薬剤部	1,200,000	補委	日本学術振興会
Giusti-Hayton法による腎機能補正Relative Dose Intensityの有用性評価	中澤孝文	薬剤部	430,000	補委	日本学術振興会
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	石井伊都子	薬剤部	600,000	補委	厚生労働省
添付文書における腎機能指標の統一に係る研究	石井伊都子	薬剤部	7,693,000	補委	厚生労働省
新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト	花岡英紀	臨床試験部	169,250,000	補委	日本医療研究開発機構
ICT技術を利用した新規安全性情報報告の基盤構築に資する調査研究	花岡英紀	臨床試験部	15,002,000	補委	厚生労働省
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALA HCL/SFC)投与の医師主導治験	花岡英紀	臨床試験部	33,000,000	補委	日本医療研究開発機構
大学病院臨床試験「アライアンス」における模擬DCTの実施及び、単一IRB審議体制整備とCRB品質向上のための「アライアンス臨床研究コンシェルジュ」の開発	花岡英紀	臨床試験部	538,462	補委	日本医療研究開発機構

計343

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiroki G, Yuichi S, Tadahiro M, et al.	循環器内科	Differential Impact of Clinical Factors for Predicting High Platelet Reactivity on Clinical Outcomes in Acute Myocardial Infarction Patients Treated With Clopidogrel and Prasugrel.	J Atheroscler Thromb. 2023 Dec 1;30(12):1791-1802.	Original Article
2	Kitahara H, Yamashita D, Sato T, et al.	循環器内科	Dual antithrombotic therapy with oral anticoagulant and P2Y12 inhibitors in patients with atrial fibrillation after percutaneous coronary intervention.	J Cardiol. 2023 Sep;82(3):207-214.	Original Article
3	Yamazaki T, Saito Y, Yamashita D, et al.	循環器内科	Impact of preceding acetylcholine provocation testing on following coronary physiological assessment during an interventional diagnostic procedure.	J Cardiol. 2023 Sep;82(3):215-219.	Original Article
4	Okuya Y, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Omitting 50 μ g of intracoronary acetylcholine injection in the left coronary artery during spasm provocation test.	J Cardiol. 2024 Jan;83(1):25-29.	Original Article
5	Tateishi K, Saito Y, Yasufuku Y, et al.	循環器内科	Prehospital predicting factors using a decision tree model for patients with witnessed out-of-hospital cardiac arrest and an initial shockable rhythm.	Sci Rep. 2023 Sep 27;13(1):16180.	Original Article
6	Saito Y, Ichihara S, Hashimoto O, et al.	循環器内科	Timing of Recognition of Type A Acute Aortic Dissection in Acute Myocardial Infarction.	Am J Cardiol. 2023 Nov 15;207:428-430. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.09.012. Epub 2023 Oct 3.	Original Article
7	Tateishi K, Hmoud H, De Gregorio L, et al.	循環器内科	Impact of Cardiac and Cerebrovascular Complications During Hospitalization on Long-Term Prognosis in Patients With COVID-19.	Am J Cardiol. 2023 Dec 15;209:114-119.	Original Article
8	Saito Y, Tanaka A, Imai T, et al.	循環器内科	Factors associated with the uric acid-lowering effects of sodium-glucose cotransporter 2 inhibition in patients with type 2 diabetes: insights from the randomized PROTECT trial.	Diabetes Obes Metab. 2024 Mar;26(3):1110-1113. doi: 10.1111/dom.15368. Epub 2023 Nov 14.	Original Article
9	Saito Y, Tanaka A, Imai T, et al.	循環器内科	Long-term effects of ipragliflozin on blood pressure in patients with type 2 diabetes: Insights from the randomized PROTECT trial.	Hypertens Res. 2024 Jan;47(1):168-176. doi: 10.1038/s41440-023-01494-6. Epub 2023 Nov 14.	Original Article
10	Yamazaki T, Saito Y, Yamashita D, et al.	循環器内科	Relation of Thrombolysis in Myocardial Infarction Frame Count to Invasively Measured Coronary Physiologic Indexes.	Am J Cardiol. 2024 Jan 15:211:282-286.	Original Article
11	Yamamoto K, Saito Y, Hashimoto O, et al.	循環器内科	Biomarkers for Risk Stratification in Patients With Type A Acute Aortic Dissection.	Am J Cardiol. 2024 Feb 1:212:103-108.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, et al.	循環器内科	Benchmarking System Monitoring on Quality Improvement in Percutaneous Coronary Intervention: A Nationwide Registry in Japan.	JACC Asia. 2024 Feb 20;4(4):323-331.	Original Article
13	Saito Y, Tanaka A, Ishizu T, et al.	循環器内科	Factors associated with carotid intima-media thickness progression in patients with asymptomatic hyperuricemia: Insights from the PRIZE study.	Sci Rep . 2023 Jul 5;13(1):10927. doi: 10.1038/s41598-023-37183-0.	Original Article
14	Nishikawa Y, Takaoka H, Kanda M, et al.	循環器内科	T1 Mapping Enabled Detection and Follow-up of Rare Immune Checkpoint Inhibitor Myocarditis.	Circ J. 2024 Jan 25;88(2):259.	Original Article
15	Kinoshita M, Higashi K, Takaoka H, et al.	循環器内科	Cardiac Magnetic Resonance Imaging Is Useful for Follow-up of Extremely Rare Pediatric COVID-19 Fulminant Myocarditis.	Circ J. 2023 Nov 24;87(12):1843.	Original Article
16	Aoki S, Sasaki H, Takaoka H, et al.	循環器内科	Aortic Valve Perforation Inducing Severe Aortic Valve Regurgitation in a Patient With Takayasu Arteritis.	Circ J. 2023 Jul 25;87(8):1143.	Original Article
17	Ryuzaki S, Kondo Y, Nakano Mi, et al.	循環器内科	Antithrombotic Regimen after Percutaneous Left Atrial Appendage Closure: A Real-world Study.	Circ J. 2023 Jun. 2023; 87:1820-1827	Original Article
18	Nakano M, Kondo Y, Kajiyama T, et al.	循環器内科	Junctional rhythm during cryoablation for typical atrioventricular nodal reentrant tachycardia.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2023; 34:1665-1670.	Original Article
19	Chiba T, Kajiyama T, Kondo Y, et al.	循環器内科	Right Ventricular Systolic Function as a Predictor of Appropriate ICD therapy.	Clin Res Cardiol. 2023 Dec 13. doi: 10.1007/s00392-023-02343-9.	Original Article
20	Sugawara M, Kondo Y, Ryuzaki S, et al.	循環器内科	Long-term prognosis and prognostic factors after primary prophylactic implantable cardioverter-defibrillator therapy.	J Cardiol. 2024 Feb 20:S0914-5087(24)00024-8.	Original Article
21	Hashiba J, Yokota H, Abe K, et al.	放射線科	Ultrasound-based radiomic analysis of the peripheral nerves for differentiation between CIDP and POEMS syndrome.	Acta Radiol. 2023 Sep;64(9):2627-2635.	Original Article
22	Takada A, Yokota H, Watanabe Nemoto M, et al.	放射線科	Prognosis prediction of uterine cervical cancer using changes in the histogram and texture features of apparent diffusion coefficient during definitive chemoradiotherapy.	PLoS One. 2023, 31: 18(3):e0282710.	Original Article
23	Abe K, Kadoya N, Ito K, Tanaka S, et al.	放射線科	Evaluation of the MVCT-based radiomic features as prognostic factor in patients with head and neck squamous cell carcinoma.	BMC Med Imaging. 2023; 23: 102.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
24	Tsuneda M, Abe K, Fujita Y, et al.	放射線科	Delivery accuracy of VMAT on two beam-matched linacs provided by accelerated go live service	J Appl Clin Med Phys. 2023 Jul;24(7):e14071.	Original Article
25	Uno T, Tsuneda M, Abe K, et al.	放射線科	A new workflow of the on-line 1.5-T MR-guided adaptive radiation therapy.	Jpn J Radiol. 2023 Nov;41(11):1316-1322.	Others
26	Murata T, Hashimoto T, Onoguchi M, et al.	放射線部	Verification of image quality improvement of low-count bone scintigraphy using deep learning.	Radiol Phys Technol. 2024 Mar;17(1):269-279.	Original Article
27	Inagaki K, Ochiai N, Hashimoto E et al.	整形外科	Postoperative complications of reverse total shoulder arthroplasty: a multicenter study in Japan.	JSES Int. 2023 Apr 20; 7(4): 642-647.	Original Article
28	Shimada Y, Hashimoto E, Ochiai N et al.	整形外科	Return to sports and physical work anatomical and reverse shoulder arthroplasty.	J Shoulder Elbow Surg. 2023 Jul; 32(7): 1445-1451	Original Article
29	Ise S, Ochiai N, Hashimoto E et al.	整形外科	Evaluation of articular changes using a rat mono-iodoacetate-induced shoulder arthritis model by histology and radiology.	J Orthop Res. 2023 Nov; 41(11): 2359-2366	Original Article
30	Hiraoka Y, Ochiai N, Narita M et al.	整形外科	Efficacy of radial shock wave therapy on rat models of adjuvant arthritis.	J Orthop Sci. 2023 Dec 1; s0949-2658(23)00322-6.	Original Article
31	Hashimoto E, Maki S, Ochiai N et al.	整形外科	Automated detection and classification of the rotator cuff tear on plain shoulder radiograph using deep learning.	J Shoulder Elbow Surg. 2024 Feb 3; s1058-2746(24)00076-4.	Original Article
32	Maki S, Furuya T, Inoue T, et al.	整形外科	Machine Learning Web Application for Predicting Functional Outcomes in Patients With Traumatic Spinal Cord Injury Following Inpatient Rehabilitation.	J Neurotrauma. 2024 May;41(9-10):1089-1100. doi: 10.1089/neu.2022.0383. Epub 2023 Nov 28.	Original Article
33	Maki S, Furuya T, Inoue M, et al.	整形外科	Machine Learning and Deep Learning in Spinal Injury: A Narrative Review of Algorithms in Diagnosis and Prognosis.	J Clin Med. 2024 Jan 25;13(3):705.	Original Article
34	Nakamura J, Fukushima W, Ando W et al.	整形外科	Time elapsed from definitive diagnosis to surgery for osteonecrosis of the femoral head: a nationwide observational study in Japan	BMJ Open. 2024 Mar 29;14(3):e082342	Original Article
35	Tsurumi Y, Hagiwara S, Horikoshi T et al.	整形外科	Leg position effects on the femoral neurovascular bundle location during a direct anterior approach total hip arthroplasty: a radiographic study	BMC Musculoskelet Disord. 2023 Oct 19;24(1):824.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
36	Inagaki K, Hagiwara S, Kawarai Y, et al.	整形外科	Correlation between Femoral Head Lateralization and Bone Morphology in Primary Hip Osteoarthritis.	Adv Orthop. 2023 Aug 19;2023:3158206.	Original Article
37	Hagiwara S, Iida S, Nakamura J, et al.	整形外科	COVID-19-related osteonecrosis of the femoral head: Case reports of five cases	JOS Case Reports, Volume 2, Issue 3, 2023, Pages 104-107	Case report
38	Ohara T, Yamazaki T, Matsuura Y	整形外科	Radioulnar Instability and Ulnar Stump Stabilization in Distal Radio Ulnar Joint Arthritis: A Cadaver Study.	Cureus. 2023 Jun 29;15(6):e41163.	Original Article
39	Mimata H, Matsuura Y, Yano S	整形外科	Mechanical evaluation of revision surgery for femoral shaft nonunion initially treated with intramedullary nailing: Exchange nailing versus augmentation plating.	Injury. 2023 Dec;54(12):111163.	Original Article
40	Ojima Y, Matsuura Y, Yano S	整形外科	Hip joint stress distribution changes depending on three-dimensional pelvic orientation: Finite-element analysis.	J Orthop Sci. 2023 Dec 7:S0949-2658(23)00329-9.	Original Article
41	Taniguchi S, Matsuura Y, Takehara T	整形外科	Thumb Pronation Angle in Thumb Opposition Evaluated by the Nail Tip Angle of Thumb-Ring Finger Opposition.	Hand (N Y). 2024 Mar 16:15589447241236249.	Original Article
42	Kimura S, Yamaguchi S, Mikami Y et al.	整形外科	Stress Fracture of the Ankle Medial Malleolus in Patients With Severe Varus Ankle Osteoarthritis: A Report of 5 Cases	Foot Ankle Orthop. 2023 Jun 28;8(2)	Case report
43	Nakajima H, Yamaguchi S, Kimura S et al.	整形外科	Validity of the Center-Center Method for the Syndesmotic Fixation Axis Compared to the Transsyndesmotic Axis	Foot & Ankle International. 2023, Vol. 44(11) 1166-1173	Original Article
44	Horii M, Akagi R, Kimura S et al.	整形外科	The influence of COVID-19 pandemic on the incidence of knee pain and physical activity level in children and adolescents in Japan: A prospective observation study	Sci. 2023 Jul;28(4)	Original Article
45	Horii M, Akagi R, Watanabe S et al.	整形外科	Number of intra-operative cyclic knee motion required to achieve stable graft tension in anterior cruciate ligament reconstruction; a prospective clinical study	Disord. 2024 Feb 5;25(1)	Original Article
46	Ishikawa H, Kobayashi T, Kaneko M, et al.	婦人科	RISING STARS: Role of MED12 mutation in the pathogenesis of uterine fibroids.	J Mol Endocrinol. 2023 Sep 29;71(4):e230039. doi: 10.1530/JME-23-0039. Print 2023 Nov 1.	Original Article
47	Usui H, Mikiya A, Katayama E, et al.	婦人科	Total human chorionic gonadotropin is a more suitable diagnostic marker of gestational trophoblastic diseases than the free β -subunit of human chorionic gonadotropin.	Pract Lab Med. 2023 Nov 6;37:e00343. doi: 10.1016/j.plabm.2023.e00343. eCollection 2023 Nov.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
48	Ishikawa S, Ishikawa H, Sato M, et al.	婦人科	Postpartum acute adrenal insufficiency of early-onset Sheehan syndrome: A case series study in a single center.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Feb;50(2):205-211. doi: 10.1111/jog.15838. Epub 2023 Nov 20.	Original Article
49	Usui H, Katayama E, Nakamura N, et al.	婦人科	Letter to the editor on Donzel M et al. "Androgenetic/biparental mosaicism in a diploid mole-like conceptus: report of a case with triple paternal contribution".	Virchows Arch. 2023 Dec 5. doi: 10.1007/s00428- 023-03669-5. Online ahead of print.	Original Article
50	Omoto A, Ishikawa H, Inoue M, et al.	周産期母性科	Metroplasty increases the take-home baby rate by reducing pregnancy loss without changing the chance of conception in women with septate uterus: a retrospective, single-center, observational study.	BMC Pregnancy Childbirth. 2023 Dec 14;23(1):860. doi: 10.1186/s12884-023- 06191-3.	Original Article
51	Ishikawa H, Yoshino O, Taniguchi F, et al.	婦人科	Efficacy and safety of a novel pain management device, AT-04, for endometriosis-related pain: study protocol for a phase III randomized controlled trial.	Reprod Health. 2024 Jan 26;21(1):12. doi: 10.1186/s12978-024- 01739-8.	Original Article
52	Sato A, Usui H, Nakamura N, et al.	婦人科	Removal of an Intrauterine Polypoid Lesion Resolved Chemotherapy- resistant Gestational Trophoblastic Neoplasia: A Case Report.	Cancer Diagn Progn. 2024 Mar 3;4(2):193-197. doi: 10.21873/cdp.10307. eCollection 2024 Mar- Apr.	Original Article
53	Suzuki Y, Usui H, Katayama E, et al.	婦人科	Single-nucleotide polymorphism array and fluorescence in situ hybridization analysis to decode the cytogenetic profile of atypical partial hydatidiform moles diagnosed by short tandem repeat polymorphism analysis.	Genes Chromosomes Cancer. 2024 Feb;63(2):e23220. doi: 10.1002/gcc.23220.	Original Article
54	Imai S, Sakao S, Nagata J et al.	眼科	Artificial intelligence-based model for predicting pulmonary arterial hypertension on chest x-ray images.	BMC Pulm Med. 2024 Feb 27;24(1):101.	Original Article
55	Kanzaki Y, Matoba R, Ishihara K et al.	眼科	Japan-epiretinal membrane (J-ERM) registry: A prospective cohort study protocol investigating the surgical outcome of epiretinal membrane.	PLoS One. 2024 Feb 8;19(2):e0297347.	Original Article
56	Ikema S, Miura G, Shimizu D et al.	眼科	Long-term follow-up of a young male who developed acute macular neuroretinopathy following COVID- 19 vaccination.	Clin Case Rep. 2023 Nov 14;11(11):e8181	Case report
57	Takemoto M, Kitamura Y, Kakisu M et al.	眼科	Retinal Pigment Epithelial Tears after Ex-PRESS Filtration Surgery in a Glaucoma Patient with a History of Ischemic Optic Neuropathy.	Case Rep Ophthalmol Med. 2023 Oct 25;2023:6645156	Case report
58	Miura G, Baba T.	眼科	Three-Year Follow-Up of Results of Intraocular Lens Fixation in Patients with Retinitis Pigmentosa.	Case Rep Ophthalmol. 2023 Aug 16;14(1):382- 387.	Original Article
59	Miura G, Fujiwara T, Ozawa Y et al.	眼科	Efficacy and safety of transdermal electrical stimulation in patients with nonarteritic anterior ischemic optic neuropathy.	Bioelectron Med. 2023 Oct 25;9(1):22.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
60	Umeda I, Kitamura Y, Yokouchi H et al.	眼科	Effect of the First-Line Therapy with Osimertinib for a Metastatic Choroidal Tumor in Advanced-Stage Lung Cancer: A Case Report.	Case Rep Ophthalmol. 2023 Jul 13;14(1):331-339.	Case report
61	Yokouchi H, Nagasato D, Mitamura Y et al.	眼科	Alterations in choroidal vascular structures due to serum levels of vascular endothelial growth factor in patients with POEMS syndrome.	Sci Rep. 2023 Jun 30;13(1):10650.	Original Article
62	Inozume T, Namikawa K, Kato H, et al.	皮膚科	Analyzing the relationship between the efficacy of first-line immune checkpoint inhibitors and cumulative sun damage in Japanese patients with advanced BRAF wild-type nonacral cutaneous melanoma: A retrospective real-world, multicenter study	Journal of Dermatological Science 2023;110:19-26	Original Article
63	Miyachi H, Konishi T, Hashimoto Y, et al.	皮膚科	Trends in mortality and morbidity in patients with bullous pemphigoid before and after approval of intravenous immunoglobulin in Japan: an interrupted time-series analysis	Clin Exp Dermatol. 2023; 48: 667-673	Original Article
64	Kochi Y, Miyashi H, Tagashira R, et al.	皮膚科	Simultaneous development of generalized pustular psoriasis and pemphigoid with multiple autoantibodies in a complete responder of pembrolizumab for lung cancer	J Dermatol. 2023; 50: 1343-1346	Original Article
65	Togawa Y, Kawashima S, Nagai K. et al.	皮膚科	Erythematous reactions to two ultraviolet excimer therapy devices with different irradiance levels: Reconsidering the reciprocity law	Skin Res Technol. 2023; 29: e13437	Original Article
66	Arima M, Matszawa T, Hashimoto E. et al.	皮膚科	A case of metallosis mimicking cutaneous malignant melanoma following total elbow arthroplasty	JEADV clinical practice 2023; 2: 343-346	Original Article
67	Yamada Y	泌尿器科学	Landscape of prostate-specific membrane antigen heterogeneity and regulation in AR-positive and AR-negative metastatic prostate cancer.	Nat Cancer. 2023 May	Original Article
68	Zhao X	泌尿器科学	Contribution of the L-Type Amino Acid Transporter Family in the Diagnosis and Treatment of Prostate Cancer.	Int J Mol Sci. 2023 Mar 24	Review
69	Saito S	泌尿器科学	Machine-learning predicts time-series prognosis factors in metastatic prostate cancer patients treated with androgen deprivation therapy.	Sci Rep. 2023 Apr 18	Original Article
70	Goto Y	泌尿器科学	Feasibility of single-port laparoscopic partial adrenalectomy with selective adrenal venous sampling and high-resolution ultrasound for unilateral aldosterone-producing adenomas.	Surgery. 2023 Aug	Original Article
71	Takayuki A	泌尿器科学	Investigation on the Usefulness of Photodynamic Diagnosis-assisted Targeted Bladder Biopsy: Japanese Real-world Study	Anticancer Res. 2023 Aug	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
72	Utsumi T	泌尿器科学	Identification of Early Biochemical Recurrence Predictors in High-Risk Prostate Cancer Patients Treated with Carbon-Ion Radiotherapy and Androgen Deprivation Therapy.	Curr Oncol. 2023 Sep 27	Original Article
73	Yasutaka Y	泌尿器科学	Targeting DNA methylation and B7-H3 in RB1-deficient and neuroendocrine prostate cancer	Sci Transl Med. 2023 Nov 15	Original Article
74	Rii J	泌尿器科学	L-type amino acid transporter 1 inhibitor JPH203 prevents the growth of cabazitaxel-resistant prostate cancer by inhibiting cyclin-dependent kinase activity.	Cancer Sci. 2024Mar	Original Article
75	Keisuke A	泌尿器科学	Copy Number Gain in Androgen Receptors Predicts the Poor Prognosis in Japanese Castration-resistant Prostate Cancer	Anticancer Res. 2024 Feb	Original Article
76	Kanaoka S	泌尿器科学	Chromatin activation with H3K36me2 and compartment shift in metastatic castration-resistant prostate cancer	Cancer Lett. 2024 Apr 28	Original Article
77	Kawase K, Kawashima S, Nagasaki J, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	High Expression of MHC Class I Overcomes Cancer Immunotherapy Resistance Due to IFN γ Signaling Pathway Defects	Cancer Immunol Res.2023 Apr;11(7):895-908.	Original Article
78	Fukumoto I, Mita Y, Shimmi R, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Preoperative simulation using three-dimensional printer in four temporal bone surgeries	Clin Case Rep.2023 May;11(5):e7135.	Original Article
79	Iinuma T, Yonekura S, Hirahara K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Differences in the expression of multidrug resistance proteins in chronic rhinosinusitis according to endotype	Allergol Int.2023 May;72(4):564-572.	Original Article
80	Aiko Kishino , Syuji Yonekura ,Ichiro Fukumoto, et,al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Nasal septum lesions causing diagnostic difficulty: Case report	Acta Oto-Laryngologica Case Reports.2023 June;8:91-96.	Case report
81	Takahashi T, Ueno HM, Yamaide F, et al.	小児科	Comparison of 30 Cytokines in Human Breast Milk between 1989 and 2013 in Japan.	Nutrients, 2023 Apr;15(7):1735	Original Article
82	Yamaide F, Oniki N, Fikri B, et al.	小児科	Cord blood zonulin is associated with high-level sensitization to food allergen and food allergy development.	Allergol Int, 2024 Apr;73(2):338-339. doi: 10.1016/j.alit.2023.10.005. Epub 2023 Nov 7.	Original Article
83	Gámez-González LB, Hamada H, Yamazaki-Nakashimada MA.	小児科	Cyclosporin for treatment of refractory multisystemic inflammatory syndrome in a child.	Cardiol Young, 2023 May; 33(5): 800-2	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
84	Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Mikami M, <i>et.al.</i>	小児科	Enhanced early skin treatment for atopic dermatitis in infants reduces food allergy.	J Allergy Clin Immunol, 2023 Jul;152(1):126-35	Original Article
85	Yoshii S, Takatani T, Shiohama T, et al.	小児科	Brain structure alterations in girls with central precocious puberty.	Front Neurosci, 2023 Jul; 17: 1215492	Original Article
86	Inoue Y, Yamamoto Y, Suzuki S, et al.	小児科	Maternal and infant serum carotenoids are associated with infantile atopic dermatitis development.	Allergy, 2023 Aug;78(8):2323-6	Original Article
87	Shiohama T, Maikusa N, Kawaguchi M, et al.	小児科	A Brain Morphometry Study with Across-Site Harmonization Using a ComBat-Generalized Additive Model in Children and Adolescents.	Diagnostics (Basel) 2023 Aug; 13: 2774	Original Article
88	Yui K, Imataka G, Shiohama T.	小児科	Lipid Peroxidation of the Docosahexaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio Relating to the Social Behaviors of Individuals with Autism Spectrum Disorder: The Relationship with Ferroptosis.	Int J Mol Sci, 2023 Sep;24(19):14796	Original Article
89	Ishiwada N, Shinjoh M, Kusama Y, et al.	小児科	Guidelines for the management of respiratory infectious diseases in children in Japan 2022.	Pediatr Infect Dis J, 2023 Oct	Original Article
90	Sato N, Yamaide F, Nakano T, et al.	小児科	Association of umbilical cord serum TARC/CCL17 with childhood allergies: A birth cohort study.	Allergol Int,2023 Oct; 72(4): 551-6	Original Article
91	Sawada D, Kato H, Kaneko H, et al.	小児科	Senescence-associated inflammation and inhibition of adipogenesis in subcutaneous fat in Werner syndrome.	Aging (Albany NY),2023 Oct; 15: 9948-64	Original Article
92	Ortug A, Valli B, Alatorre Warren JL, et al.	小児科	Brain Pathways in LIS1-Associated Lissencephaly Revealed by Diffusion MRI Tractography.	Brain Sci,2023 Nov;13(12):1655	Original Article
93	Yui K, Imataka G, Shiohama T.	小児科	Lipid Peroxidation via Regulating the Metabolism of Docosahexaenoic Acid and Arachidonic Acid in Autistic Behavioral Symptoms.	Curr Issues Mol Biol	Original Article
94	Ito T, Nakanishi Y, Shibata R, et al.	小児科	The propionate-GPR41 axis in infancy protects from subsequent bronchial asthma onset.	Gut Microbes. 2023 Jan- Dec;15(1):2206507.	Original Article
95	Murayama Y, Hamada H, Shiko Y, et al.	小児科	Risk factors for coronary artery abnormalities and resistance to immunoglobulin plus ciclosporin A therapy in severe Kawasaki disease: subanalysis of the KAICA trial, randomized trial for ciclosporin A as the first-line treatment.	Front Pediatr. 2023 Dec;11:1321533	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
96	Yu X, Yang MC, Jindal AK, et al.	小児科	A collaborative study for incomplete Kawasaki disease in Asia.	Int J Rheum Dis 2023; Dec26: 2589-2591. doi: 10.1111/1756-185X.14812	Original Article
97	Okunushi K, Kobayashi H, Yoh Y, et al.	小児科	A case report of a child with pulmonary hypertension associated with SARS-CoV-2 infection.	Front Pediatr. 2023 Dec;11:1321533	Original Article
98	Aoki T, Motohashi S.	小児科/免疫細胞医学	Progress in Natural Killer T Cell-Based Immunotherapy for Cancer: Use of Allogeneic and Gene-Edited Cells.	Critical Reviews TM in Oncogenesis, 2024 ;29:1-9	Review
99	Aoki T, Shiba N, Tsujimoto S, et al.	小児科/免疫細胞医学	High IL2RA/CD25 expression is a prognostic stem cell biomarker for pediatric acute myeloid leukemia without a core-binding factor.	Pediatr Blood Cancer, 2024 Feb;71:e30803	Original Article
100	Takami M, Aoki T, Nishimura K, et al.	小児科/免疫細胞医学	Anti-V α 24J α 18 TCR Antibody Tunes iNKT Cell Responses to Target and Kill CD1d-negative Tumors in an Fc γ RII (CD32)-dependent Manner.	Cancer Res Commun, 2024 Feb; 4 :446-59,	Original Article
101	Igarashi A, Katsunuma T, Matsumura T, et al.	小児科	Efficacy and safety of nemolizumab in paediatric patients aged 6-12 years with atopic dermatitis with moderate-to-severe pruritus: results from a phase III, randomized, double-blind, placebo-controlled, multicentre study.	Br J Dermatol. 2023 Dec 20;190(1):20-28.	Original Article
102	Hayashi H, Iwasaki M, Nakasone H, et al.	小児科	Impact of stem cell selection between bone marrow and peripheral blood stem cells for unrelated hematopoietic stem cell transplantation for hematologic malignancies: on behalf of the Donor/Source Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy.	Cytotherapy. 2024 Feb;26(2):178-184. doi: 10.1016/j.jcyt.2023.11.012. Epub 2023 Dec 16.	Original Article
103	Ishida H, Tsujimoto SI, Hasegawa D, et al.	小児科	Optimizing transplantation procedures through identification of prognostic factors in second remission for children with acute myeloid leukemia with no prior history of transplant.	Haematologica. 2024 Jan 1;109(1):312-317. doi: 10.3324/haematol.2023.283203.	Original Article
104	Idemoto K, Niitsu T, Shiina A, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Association between precautionary behaviors against coronavirus disease and psychosocial factors in outpatients with a pre-existing disease and their attendants	PCN Rep. 2023 Sep; 2(3): e141.	Original Article
105	Yamasaki F, Kanahara N, Nakata Y, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Can brexpiprazole be switched safely in patients with schizophrenia and dopamine supersensitivity psychosis? A retrospective analysis in a real-world clinical practice.	J Psychopharmacol. 2023 Oct;37(10):992-1002.	Original Article
106	Iyo M, Akiyoshi H, Sekine D, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	An exploratory database study of factors influencing the continuation of brexpiprazole treatment (prescription) in patients with schizophrenia using information from psychiatric electronic medical records processed with natural language processing.	Schizophr Res. 2023 May;255:122-131.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
107	Masumo Y, Kanahara N, Kogure M, et al	精神神経科・こどものこころ診療部	Dopamine supersensitivity psychosis and delay of clozapine treatment in patients with treatment-resistant schizophrenia.	Int Clin Psychopharmacol. 2023 Mar 1;38(2):102-109.	Original Article
108	Hirose Y, Oda Y, Yoshino K, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Reduction of claudin-5 and aquaporin-4 in the rat hippocampal CA-1 and CA-3 regions of a learned helplessness model of depression	Pharmacol Biochem Behav. 2024 Jan;234:173676.	Original Article
109	Shiina A, Niitsu T, Tomoto A, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	An international comparison study between public opinion in the UK and Japan regarding capital punishment and the use of an insanity defense,	Ethics, Medicine and Public Health, Volume 32, 100966 (2024.01)	Original Article
110	Hirose Y, Oda Y, Kobayashi T, et al	精神神経科・こどものこころ診療部	Effectiveness of Brexpiprazole in a Patient With Bipolar Disorder and Comorbid Persistent Genital Arousal Disorder/Genito-Pelvic Dysesthesia	Cureus. 2023 Dec 11;15(12):e50349.	Case report
111	Ikemizu Y, Oda Y, Hirose Y, et al	精神神経科・こどものこころ診療部	Cerebellar and Occipital Alterations in Brain Perfusion in a Patient With Post-acute COVID-19 Encephalopathy Misdiagnosed As Primary Psychotic Disorder	Cureus. 2024 Jan 25;16(1):e52953.	Case report
112	Katsuhiro Uzawa, Atsushi Kasamatsu, Mitsuo Yamauchi.	歯科・顎・口腔外科	Collagen cross-linking in oral cancer	Oral Sci Int. 2024 Jan 21(1):3-14. doi: https://doi.org/10.1002/osi2.1182 .	Review
113	Kasamatsu A, Nozaki R, Kawasaki K, et al.	歯科・顎・口腔外科	Synthetic Circular RNA for microRNA-1269a Suppresses Tumor Progression in Oral Squamous Cell Carcinoma	Cancers. 2024 Mar 21;16(6):1242. doi: 10.3390/cancers16061242	Original Article
114	Son K, Tarao K, Hateruma Y, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Perioperative continuous body weight measurements with load cells under the bed legs in patients undergoing abdominal surgery	European Journal of Anaesthesiology Intensive Care 2(4) e0028-e0028 2023年	Original Article
115	Ishibashi K, Kitamura Y, Kato S, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Dynamic vocal cord behavior and stridor during emergence from general anesthesia in small children with supraglottic airway.	J Anesth. 2023 Oct;37(5):672-680.	Original Article
116	Nozaki-Taguchi N, Takai H, Shono K, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Continuous monitoring of activity and vital signs with load cells under the bed legs in advanced cancer patients: a prospective exploratory observational study-can it represent performance status?	Ann Palliat Med. 2023 Jul;12(4):757-766.	Original Article
117	Izumi M	脳神経外科	Focal ictal direct current shifts by a time constant of 2seconds were clinically useful for resective epilepsy surgery.	Epilepsia. 2023 Dec;64(12):3294-3306.	Original Article
118	Yoshida Y	脳神経外科	Prehospital stroke-scale machine-learning model predicts the need for surgical intervention.	Sci Rep 2023 Jun 5;13(1):9135	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Yamamoto T	脳神経内科	Utility of movement disorder society-unified Parkinson's disease rating scale for evaluating effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation.	Front Neurol. 2023 Jan 6;13:104233.	Original Article
120	Sakata M	脳神経外科	In-stent stenosis after stenting the PulseRider for a middle cerebral artery aneurysm: A case report.	Radiol Case Rep 2023 22;18:3453-3456	Case report
121	Saga M	脳神経外科	Lipoblastomatosis extended into the lumbar spinal canal in a child: A case report.	Pediatr Neurosurg 58: 168-172, 2023	Case report
122	Ito Y, Usui G, Seki M, et al.	呼吸器外科	Association of frequent hypermethylation with high grade histological subtype in lung adenocarcinoma.	Cancer Sci. 2023 Apr 21.	Original Article
123	Toyoda T, Suzuki H, Yamanaka T, et al.	呼吸器外科	The effect of chest wall surgery on lung volume: a new evaluation concept.	J Thorac Dis. 2023 Apr 28;15(4):1640-1647	Original Article
124	Karita R, Suzuki H, Onozato Y, et al.	呼吸器外科	A simple nomogram for predicting occult lymph node metastasis of non-small cell lung cancer from preoperative computed tomography findings, including the volume-doubling time.	Surg Today. 2023 May 2.	Review
125	Yamanaka T, Sakairi Y, Tamura H, et al.	呼吸器外科	Modified Clagett procedure for acute pleural empyema.	Surg Today.2023 Jun;53(6):743-747.	Original Article
126	Tanaka K, Suzuki H, Inage T, et al.	呼吸器外科	Lobulated tumor contour as a predictor of preoperative tumor invasion of the lung or pericardium in thymoma patients.	Surg Today. 2023 Jun 20	Original Article
127	Ochi T, Suzuki H, Hirai Y, et al.	呼吸器外科	Robot-assisted thoracic surgery versus video-assisted thoracic surgery for mediastinal lesions.	J Thorac Dis. 2023 Jul 31;15(7):3840-3848.	Original Article
128	Kazuhisa Tanaka, Hidemi Suzuki, Terunaga Inage, et al.	呼吸器外科	Surgery for Secondary Spontaneous Pneumothorax with Chronic Lung Diseases.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. July 28, 2023	Original Article
129	Tamura H, Suzuki H, Yamanaka T, et al.	呼吸器外科	Surgical treatment for chronic pulmonary coccidioidomycosis:a retrospective study from a single institution.	Surg Today. 2023 Aug 9.	Original Article
130	Kaiho T, Suzuki H, Hata A, et al.	呼吸器外科	Targeting PD-1/PD-L1 inhibits rejection in a heterotopic tracheal allograft model of lung transplantation.	Front Pharmacol. 2023 Nov 6;14:1298085.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Matsumoto H, Suzuki H, Yamanaka T, et al.	呼吸器外科	Anti-CD20 Antibody and Calcineurin Inhibitor Combination Therapy Effectively Suppresses Antibody-Mediated Rejection in Murine Orthotopic Lung Transplantation.	Life (Basel). 2023 Oct 11;13(10):2042.	Original Article
132	Karita R, Suzuki H, Onozato Y, et al.	呼吸器外科	Could the molecular profile help predict occult nodal metastasis in early-stage lung adenocarcinoma?	Surg Today. 2023 Oct 25.	Letter
133	Ochi T, Sakairi Y, Yusa J, et al.	呼吸器外科	Surgical treatment of a large portopulmonary venous anastomosis in a patient with portal vein thrombosis.	JTCVS Tech. 2023 Dec 13;23:158-160.	Case Reports
134	Toyoda T, Cerier EJ, Manerikar AJ, et al.	呼吸器外科	Recipient, donor, and surgical factors leading to primary graft dysfunction after lung transplant.	J Thorac Dis. 2023 Feb 28;15(2):399-409	Original Article
135	Toyoda T, Nakajima T, Yamanaka T, et al.	呼吸器外科	Postoperative Prognosis of Patients with Non-small Cell Lung Cancer with cN0 and pN2.	Respiratory Endoscopy. 2023;1(2): 52-57.	Original Article
136	Karita R, Suzuki H, Onozato Y, et al.	呼吸器外科	A simple nomogram for predicting occult lymph node metastasis of non-small cell lung cancer from preoperative computed tomography findings, including the volume-doubling time.	Surg Today. 2024 Jan;54(1):31-40.	Review
137	Tanaka K, Suzuki H, Inage T, et al.	呼吸器外科	Lobulated tumor contour as a predictor of preoperative tumor invasion of the lung or pericardium in thymoma patients.	Surg Today. 2024 Feb;54(2):162-167.	Original Article
138	Tanaka K, Suzuki H, Inage T, et al.	呼吸器外科	Surgery for Secondary Spontaneous Pneumothorax with Chronic Lung Diseases.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan 26;30(1):23-00061.	Original Article
139	Tamura H, Suzuki H, Yamanaka T, et al.	呼吸器外科	Surgical treatment for chronic pulmonary coccidioidomycosis: a retrospective study from a single institution.	Surg Today. 2024 Apr;54(4):325-330.	Original Article
140	Suzuki E, Kawata N, Shimada A, et al.	呼吸器内科	Prognostic nutritional index (PNI) as a potential prognostic tool for exacerbation of COPD in elderly patients.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2023 Jun 7;18:1077-1090.	Original Article
141	Shikano K, Nakajima T, Kawasaki T, et al.	呼吸器内科	Feasibility of anesthesia induction by a combination of topical pharyngeal with lidocaine spray and moderate intravenous sedation in flexible bronchoscopic procedure.	Respir Endosc. 2023 Jul;1(1):13-19.	Original Article
142	Sanada TJ, Hosomi K, Park J, et al.	呼吸器内科	Partially hydrolyzed guar gum suppresses the progression of pulmonary arterial hypertension in a Su5416/hypoxia rat model.	Pulm Circ. 2023 Jul 12;13(3):e12266.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
143	Takeda K, Kasai H, Tajima H, et al.	呼吸器内科	Mixed-methods education of mechanical ventilation for residents in the era of the COVID-19 pandemic: Preliminary interventional study.	PLoS One. 2023 Jul 13;18(7):e0287925.	Original Article
144	Hirama R, Takeda K, Sakao S, et al.	呼吸器内科	A Comparison of Clinical Presentations in Coronavirus Disease 2019 Caused by Different Omicron variants in Japan: A Retrospective Study.	Intern Med. 2023 Aug 15;62(16):2321-2328.	Original Article
145	Shikano K, Abe M, Hirama R, et al.	呼吸器内科	A retrospective comparison between digital to conventional drainage systems for secondary spontaneous pneumothorax related to diffuse interstitial lung disease.	Clin Respir J. 2023 Aug;17(8):733-739.	Original Article
146	Ikeda H, Nagasaki J, Shimizu D, et al.	呼吸器内科	Immunologic Significance of CD80/CD86 or Major Histocompatibility Complex-II Expression in Thymic Epithelial Tumors.	JTO Clin Res Rep. 2023 Sep 9;4(10):100573.	Original Article
147	Kuriyama A, Kasai H, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	Clinical significance of lung cross-sectional area measured by computed tomography in chronic thromboembolic pulmonary hypertension: The correlation with pulmonary hemodynamics and the limitations.	Pulm Circ. 2023 Sep 11;13(3):e12287.	Original Article
148	Kawame C, Kasai H, Shiohira S, et al.	呼吸器内科	Role of Fibrin Monomer Complex in Coronavirus Disease 2019 for Venous Thromboembolism and the Prognosis.	Intern Med. 2023 Oct 15;62(20):2941-2948.	Original Article
149	Kitahara S, Abe M, Kono C, et al.	呼吸器内科	Prognostic impact of the cross-sectional area of the erector spinae muscle in patients with pleuroparenchymal fibroelastosis.	Sci Rep. 2023 Oct 12;13(1):17289.	Original Article
150	Takeda K, Kasai H, Hayama N, et al.	呼吸器内科	Wireless electronic stethoscope's potential for medical education in ward round examination.	Respirology. 2023 Oct;28(10):969-971.	Original Article
151	Kawata N, Iwao Y, Matsuura Y, et al.	呼吸器内科	Prediction of oxygen supplementation by a deep-learning model integrating clinical parameters and chest CT images in COVID-19.	Jpn J Radiol. 2023 Dec;41(12):1359-1372	Original Article
152	Takeda K, Kasai H, Tajima H, et al.	呼吸器内科	Effectiveness of lung ultrasound training utilizing a high-fidelity simulator.	ATS Sch. 2023 Dec 20;5(1):133-141.	Original Article
153	Miyakoshi J, Yazaki S, Shimoi T, et al.	呼吸器内科	Discordance in PD-L1 expression using 22C3 and SP142 assays between primary and metastatic triple-negative breast cancer.	Virchows Arch. 2023 Dec;483(6):855-863.	Original Article
154	Imamoto T, Kawasaki T, Sato H, et al.	呼吸器内科	Different transcriptome features of peripheral blood mononuclear cells in non-emphysematous chronic obstructive pulmonary disease.	Int J Mol Sci. 2024 Jan;25(1):66	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
155	Ohashi K, Nishito Y, Fukuda H, et al.	呼吸器内科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio is a prognostic factor reflecting the tumor microenvironment in squamous cell lung cancer.	Sci Rep. 2024 Jan 3;14(1):429.	Original Article
156	Okaya T, Kawasaki T, Sato S, et al.	呼吸器内科	Functional roles of CD26/DPP4 in bleomycin-induced pulmonary hypertension associated with interstitial lung disease.	Int J Mol Sci. 2024 Jan 6;25(2):748.	Original Article
157	Imai S, Sakao S, Nagata J, et al.	呼吸器内科	Artificial intelligence-based model for predicting pulmonary arterial hypertension on chest x-ray images.	BMC Pulm Med. 2024 Feb 27;24(1):101.	Original Article
158	Tanabe N, Kumamaru H, Tamura Y, et al.	呼吸器内科	Pulmonary hypertension with interstitial pneumonia: Initial treatment effectiveness and severity in a Japan registry.	JACC Asia. 2024 Mar 26;4(5):403-417.	Original Article
159	Ishii D, Kawasaki T, Sato H, et al.	呼吸器内科	Effects of anti-fibrotic drugs on transcriptome of peripheral blood mononuclear cells in idiopathic pulmonary fibrosis.	Int J Mol Sci. 2024 Mar 28;25(7):3750.	Original Article
160	Kitahara S, Kasai H, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	Chronic expanding haematoma causing stenosis of the right ventricular outflow tract and pulmonary hypertension.	Intern Med. 2023 Jun 1;62(11):1641-1645	Case report
161	Takeda K, Yato Y, Saito M, et al.	呼吸器内科	Diagnostic imaging of intrathoracic extramedullary haematopoiesis.	Respirol Case Rep. 2023 Sep 5;11(10):e01212.	Case report
162	Murai Y, Sakao S, Kure F, et al.	呼吸器内科	Reduction of mycophenolate mofetil dosage to limit prolonged viral shedding in solid organ transplant recipients with COVID-19: Two case reports.	Respir Investig. 2024 Jan;62(1):98-101.	Case report
163	Itoh T, Kawasaki T, Kaiho T, et al.	呼吸器内科	Long-term nintedanib treatment for progressive pulmonary fibrosis associated with Hermansky-Pudlak syndrome type 1 followed by lung transplantation.	Respir Investig. 2024 Jan;62(1):176-178.	Case report
164	Shionoya Y, Katsumata M, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Radiation-induced organizing pneumonia caused by carbon-ion radiotherapy for lung cancer.	Radiol Case Rep. 2024 Feb;19(2):567-571.	Case report
165	Tatsumi K.	呼吸器内科	Western medicine and Japanese Kampo medicine are in a complementary relationship ~ Stillness and movement are beautifully harmonized in Japanese Kampo medicine ~.	Traditional & Kampo Medicine. 2023 May;10:97-102.	Review
166	Kawaguchi Y, Terui K, Takenouchi A, et al.	小児外科	Outcomes of adult native liver survivors with biliary atresia: the current situation in Japan.	Pediatr Surg Int 2023 39:263.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
167	Erika Nakatani, Keita Terui, Mitsuyuki Nakata, et al.	小児外科	Gastric tumor mimicking bronchial tissue associated with a laryngotracheoesophageal cleft: a case report	Surgical Case Reports 2023;9:72	Case report
168	Fumita T, Terui K, Shibata R, et al.	小児外科	Surgical outcomes of very-early-onset ulcerative colitis: retrospective comparative study with older pediatric patients.	Pediatr Surg Int. 2024;40:73. doi: 10.1007/s00383-024-05662-8. Epub 2024 Mar 7.	Original Article
169	Takenouchi A, Kudo W, Terui K, et al.	小児外科	Impaired Aortic Growth in Neuroblastoma Patients After Intensive Treatment.	J Pediatr Surg. 2024;59:593-8.	Original Article
170	Wataru K, Keita T, Shinya H, et al.	小児外科	Establishment of a quantitative assessment model and web-based calculation tool for the skeletal muscle index in children.	Clin Nutr ESPEN. 2023;58:160-4.	Original Article
171	Oita S, Saito T, Hashimoto R, et al.	小児外科	Frequency of infiltrating regulatory T-cells in the portal tract of biliary atresia.	Pediatr Surg Int. 2023;39:259.	Original Article
172	Terui K, Tachimori H, Oita S, et al.	小児外科	Influence of surgical volume on the mortality and morbidity of gastrointestinal perforation in children.	Surg Today. 2024 May;54(5):419-427.	Original Article
173	Masuda H, Mori M, Hirano S, et al.	脳神経内科	Higher longitudinal brain white matter atrophy rate in aquaporin-4 IgG-positive NMOSD compared with healthy controls.	Sci Rep.2023 Aug 3;13(1):12631.	Original Article
174	Misawa S, Denda T, Kodama S, et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of mirogabalin for chemotherapy-induced peripheral neuropathy: a prospective single-arm trial (MiroCIP study)	BMC Cancer.2023 Nov 11;23(1):1098.	Original Article
175	Morooka M, Hiraga A, Tanaka K, et al.	脳神経内科	Two Cases of Encephalitis without Anti-N-methyl-D-aspartate Receptor Antibody Successfully Treated with Ovarian Teratoma Resection and Immunotherapy	Intern Med.2023 Jun 15;62(12):1817-1820.	Case report
176	Sugiyama A, Kojima K, Hirano S, et al.	脳神経内科	Unilateral Wing-Beating Tremor in Neuronal Intranuclear Inclusion Disease.	Case Rep Neurol.2023 Jun 5;15(1):126-130.	Case report
177	Tamura M, Takeda T, Kitayama Y, et al.	脳神経内科	Neuropathological features of levodopa-responsive parkinsonism in multiple system atrophy: an autopsy case report and comparative neuropathological study	Front Neurol.2023 Nov 14;14:1293732.	Case report
178	Uzawa A, Ozawa Y, Yasuda M, et al.	脳神経内科	Minimal symptom expression achievement over time in generalized myasthenia gravis	Acta Neurol Belg.2023 Jun;123(3):979-982.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
179	Uzawa A, Suzuki S, Kuwabara S, et al.	脳神経内科	Effectiveness of early cycles of fast-acting treatment in generalised myasthenia gravis	J Neurol Neurosurg Psychiatry.2023 Jun;94(6):467-473.	Original Article
180	Yasuda M, Uzawa A, Kuwabara S, et al.	脳神経内科	Clinical features and outcomes of patients with muscle-specific kinase antibody-positive myasthenia gravis in Japan	J Neuroimmunol.2023 Nov 7:385:578241.	Original Article
181	Yasuda M, Uzawa A, Ozawa Y, et al.	脳神経内科	Serum cytokine profiles in myasthenia gravis with anti-muscle-specific kinase antibodies	J Neuroimmunol.2023 Nov 15:384:578205.	Original Article
182	Handa H, Sugiyama A, Kaname T, et al.	脳神経内科	Frontal deficits and atrophy in a patient with familial encephalopathy with neuroserpin inclusion bodies detected by single-case voxel-based morphometry: a case report.	BMC Neurol.2024 Jan 2;24(1):9.	Case report
183	Wang J, Sugiyama A, Yokota H, et al.	脳神経内科	Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle.	Diagnostics (Basel).2024 Jan 17;14(2):201.	Original Article
184	Shimada-Sammori K, Shimada T, Miura R, et al.	救急科・集中治療部	Machine learning algorithms for predicting days of high incidence for out-of-hospital cardiac arrest.	Scientific reports 2023; 13: 9950・2023/6	Original Article
185	Hayashi Y, Shimazui T, Tomita K, et al.	救急科・集中治療部	Associations between fluid overload and outcomes in critically ill patients with acute kidney injury: a retrospective observational study.	Scientific reports 2023; 13: 17410・2023/10	Original Article
186	Imaeda T, Oami T, Takahashi N, et al.	救急科・集中治療部	Epidemiology of sepsis in a Japanese administrative database.	Acute medicine & surgery 2023; 10: e890.・2023/10	Review
187	Oami T, Abe T, Nakada TA, et al.	救急科・集中治療部	Association between hospital spending and in-hospital mortality of patients with sepsis based on a Japanese nationwide medical claims database study.	Heliyon 2024; 10: e23480.・2024/1	Original Article
188	Yamao Y, Oami T, Yamabe J, et al.	救急科・集中治療部	Machine-learning model for predicting oliguria in critically ill patients.	Scientific reports 2024; 14: 1054.・2024/1	Original Article
189	Hideki Tokumoto , Kahoko Yamada, Rika Hane	形成・美容外科	Fascia turnover procedure at breast reconstruction using free TRAM flap for decreasing umbilical migration	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery023 Oct	Original Article
190	Hideki Tokumoto	形成・美容外科	Do the Histological Differences of Soft Tissue Sarcomas Affect the Rate of Skin Defect Reconstruction?□	Annals of Plastic Surgery 2023Nov.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
191	Hideki Tokumoto	形成・美容外科	Correlation between abdominal visceral volume measured by a simple procedure and bulging at the abdominal free flap donor site for breast reconstruction□	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery 023 Sep	Original Article
192	Kahoko Yamada	形成・美容外科	Changes in mandibular position during midface distraction in patients with syndromic craniosynostosis□	Journal of Cranio-Maxillofacial Surgery 2024Mar	Original Article
193	Rika Hane	形成・美容外科	Great Toe Tip Reconstruction after Severe COVID-19 Using Hemi-pulp V-Y Advancement Flap: A Case Report□	Plastic and reconstructive surgery. Global open 2024Mar	Original Article
194	Herai Y, Yahaba M, Taniguchi T	感染制御部	Factors Influencing the Indeterminate Results in a T-SPOT.TB test: A Matched Case-control Study .	Pediatr Infect Dis J 2023 Oct	Original Article
195	Sato R, Yokokawa D, Uehara T et al	総合診療科	Restless X syndrome: a new diagnostic family of nocturnal, restless, abnormal sensations of various body parts	Diagnosis (Berl). 2023 May	Letter
196	Tamura H, Shikino K, Sogai D et al	総合診療科	Association Between Physician Empathy and Difficult Patient Encounters: a Cross-Sectional Study	J Gen Intern Med. 2023 Jun	Original Article
197	Yanagita Y, Hayashi Y, Yokokawa D et al	総合診療科	Pharyngeal Haemorrhage Immediately After Intake of Fried Foods: Angina Bullosa Haemorrhagica	Eur J Case Rep Intern Med. 2023 Apr 13	Case report
198	Yokokawa D, Noda K, Uehara T et al	総合診療科	Do Japanese word-embedded representations obtained in the academic corpus retain the medical concepts of "infarction"?	Artif Intell Med. 2023 Sep	Original Article
199	Tamura H, Ishizuka K, Mori T et al	総合診療科	I Have Been an Anomaly': Transcortical Sensory Aphasia	Am J Med. 2024 Mar	Case report
200	Ishizuka K, Shikino K, Li Y et al	総合診療科	The differential diagnosis of medical and psychogenic disease in primary care	J Gen Fam Med. 2023 Nov 29	Letter
201	Yanagita Y, Shikino K, Ishizuka K et al	総合診療科	Improving decision accuracy using a clinical decision support system for medical students during history-taking: a randomized clinical trial	BMC Med Educ. 2023 May 25	Original Article
202	Ishizuka K, Shikino K, Kasai H et al	総合診療科	The influence of Gamification on medical students' diagnostic decision making and awareness of medical cost: a mixed-method study	BMC Med Educ. 2023 Oct 28	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
203	Yokokawa D, Yanagita Y, Li Y et al	総合診療科	For any disease a human can imagine, ChatGPT can generate a fake report	Diagnosis (Berl). 2024 Feb 23	Letter
204	Tamura H, Uehara T, Li Y et al	総合診療科	A Stepwise Progression of Acute Bilateral Visual Loss Due to Onodi Cell Sinusitis	Cureus. 2023 Oct 20	Case report
205	Yanagita Y, Yokokawa D, Uchida S et al	総合診療科	Accuracy of ChatGPT on Medical Questions in the National Medical Licensing Examination in Japan: Evaluation Study	JMIR Form Res. 2023 Oct 13	Original Article
206	Shikino K, Tsukamoto T, Noda K et al	総合診療科	Do clinical interview transcripts generated by speech recognition software improve clinical reasoning performance in mock patient encounters? A prospective observational study	BMC Med Educ. 2023 Apr 21	Original Article
207	Hirata R, Katsuki N, Shimada H et al	総合診療科	The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study	Int J Gen Med. 2024 Mar 25	Original Article
208	Fukui S, Shikino K, Nishizaki Y et al	総合診療科	Association between regional quota program in medical schools and practical clinical competency based on General Medicine In-Training Examination score: a nationwide cross-sectional study of resident physicians in Japan	Postgrad Med J. 2023 Oct 19	Original Article
209	Tago M, Hirata R, Katsuki NE, et al	総合診療科	Contributions of Japanese Hospitalists During the COVID-19 Pandemic and the Need for Infectious Disease Crisis Management Education for Hospitalists: An Online Cross- Sectional Study	Risk Manag Healthc Policy. 2023 Aug 21	Original Article
210	Shimizu I, Kasai H, Shikino K et al	総合診療科	Developing Medical Education Curriculum Reform Strategies to Address the Impact of Generative AI: Qualitative Study	JMIR Med Educ. 2023 Nov 30	Original Article
211	Nagasaki K, Nishizaki Y, Shinozaki T et al	総合診療科	Association between prolonged weekly duty hours and self-study time among residents: a cross-sectional study	Postgrad Med J. 2023 Sep 21	Original Article
212	Nagasaki K, Kobayashi H, Nishizaki Y et al	総合診療科	Association of sleep quality with duty hours, mental health, and medical errors among Japanese postgraduate residents: a cross-sectional study	Sci Rep. 2024 Jan 17	Original Article
213	Shikino K, Sekine M, Nishizaki Y et al	総合診療科	Distribution of internal medicine rotations among resident physicians in Japan: a nationwide, multicenter, cross-sectional study	BMC Med Educ. 2024 Mar 20	Original Article
214	Kozato A, Shikino K, Matsuyama Y et al	総合診療科	A qualitative study examining the critical differences in the experience of and response to formative feedback by undergraduate medical students in Japan and the UK	BMC Med Educ. 2023 Jun 5	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
215	Shimizu I, Kasai H, Shikino K et al	総合診療科	Development of a Clinical Simulation Video to Evaluate Multiple Domains of Clinical Competence: Cross-Sectional Study	JMIR Med Educ. 2023 Nov 30	Original Article
216	Tago M, Hirata R, Shikino K et al	総合診療科	The Milestones of Clinical Research for Young Generalist Physicians: Conducting and Publishing Studies	Int J Gen Med. 2023 Jun 12	Original Article
217	Ishizuka K, Shikino K, Kuriyama A et al	総合診療科	A proposal for coping strategies on burnout among Japanese resident physicians	J Gen Fam Med. 2023 Dec 26	Letter
218	Shikino K, Tago M, Watari T et al	総合診療科	Educational strategies related to information science and technology for medical students: General medicine physicians' perspective	J Gen Fam Med. 2023 Nov 6	Letter
219	Takeda E, Katsuyama Y, Sogai D et al	総合診療科	Cancer Screening Abstinence Rates and Rationales Among Regular Outpatients at a Rural Hospital in Japan: A Cross-Sectional Study	Int J Gen Med. 2023 Nov 10	Original Article
220	Shikino K, Ando A, Okamoto Y et al	総合診療科	Protecting the primary care physicians' well-being	J Gen Fam Med. 2023 Oct 30	Letter
221	Hoshina Y, Limeisa, Takaiso H et al	総合診療科	Impact of near-peer teaching on medical English learning motivation among medical students and residents	J Gen Fam Med. 2023 May 30	Letter
222	Tanaka E, Nishimura Y, Kuriyama A et al	総合診療科	Utility of PERMA-profiler in association with burnout of internists amid COVID-19 pandemic: A cross-sectional study	Asian J Psychiatr. 2023 Sep;87	Original Article
223	Otsuka Y, Ishizuka K, Harada Y et al	総合診療科	Three Subtypes of Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Narrative Review	Intern Med. 2024 Jan 13	Review
224	Shikino K, Tago M, Hirata R et al	総合診療科	Educational strategies for general medicine education in accordance with the model core curriculum for medical education in Japan	J Gen Fam Med. 2023 Apr 1	Letter
225	Tago M, Hirata R, Takahashi H et al	総合診療科	How Do We Establish the Utility and Evidence of General Medicine in Japan?	Int J Gen Med. 2024 Feb 22	Letter
226	Kurihara M, Yanagita Y, Yokokawa D et al	総合診療科	Atypical Kikuchi-Fujimoto Disease: FDG-PET Contribution To The Diagnosis.	Eur J Case Rep Intern Med. 2024 Jan 25	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
227	Yanagita Y, Uehara T, Momose M et al	総合診療科	Thromboangiitis Obliterans Successfully Treated With Smoking- Cessation Instruction Including Passive Smoking Cessation	Annals of Internal Medicine: Clinical Cases. 2023 May 2	Case report
228	Tago M, Hirata R, Katsuki N et al	総合診療科	Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study	Clin Interv Aging. 2024 Feb 7	Original Article
229	Kase S, Shikino K, Katahira T et al	総合診療科	Mediastinal hematoma due to traumatic injury to the azygous vein	Clin Case Rep. 2024 Jan 19	Original Article
230	Kojima R, Nakamoto S, Kogure T, et al.	消化器内科	Re-analysis of hepatitis B virus integration sites reveals potential new loci associated with oncogenesis in hepatocellular carcinoma.	World J Virol. 2023 Jun 25;12(3):209-220.	Original article
231	Kanzaki H, Ogasawara S, Okubo T, et al.	消化器内科	Cabozantinib for Advanced Hepatocellular Carcinoma in the Latest Real-World Practice: A Multicenter Retrospective Analysis.	Drugs Real World Outcomes. 2023 Dec;10(4):513-520.	Original article
232	Kondo T, Fujiwara K, Nakagawa M, et al.	消化器内科	Estimation of the effect of atezolizumab plus bevacizumab on pulmonary arterial hypertension using computed tomography in HCC patients.	Sci Rep. 2023 Jul 17;13(1):11524.	Original article
233	Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, et al.	消化器内科	Outcomes for Underwater Endoscopic Mucosal Resection and Endoscopic Submucosal Dissection of 21-30-mm Colorectal Polyps: A Feasible Study.	Dig Dis Sci. 2023 Oct;68(10):3963-3973.	Original article
234	Kondo T, Fujimoto K, Fujiwara K, et al.	消化器内科	Potential of circulating receptor- interacting protein kinase 3 levels as a marker of acute liver injury.	Sci Rep. 2023 Aug 28;13(1):14043.	Original article
235	Kobayashi K, Ogasawara S, Maruta S, et al.	消化器内科	A prospective study exploring the safety and efficacy of lenvatinib for patients with advanced hepatocellular carcinoma and high tumor burden: The LAUNCH study.	Clin Cancer Res. 2023 Dec;55(12):1072-1080.	Original article
236	Nagashima A, Okimoto K, Nakagawa R, et al.	消化器内科	Investigation of risk factors for metachronous recurrence in patients with early gastric adenocarcinoma by miRNA-mRNA integral profiling.	Sci Rep 2023 Nov 11;13(1):19661.	Original article
237	Ohyama H, Hirotsu Y, Amemiya K, et al.	消化器内科	Development of a molecular barcode detection system for pancreaticobiliary malignancies and comparison with next-generation sequencing.	Cancer Genet. 2023 Dec 14;280-281:6-12.	Original article
238	Ohyama H, Hirotsu Y, Amemiya K, et al.	消化器内科	Liquid biopsy of wash samples obtained via endoscopic ultrasound- guided fine-needle biopsy: Comparison with liquid biopsy of plasma in pancreatic cancer.	Diagn Cytopathol. 2024 Jun;52(6):325-331.	Original article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
239	Matsumura T, Sonoda M, Okimoto K, et al.	消化器内科	Differences Between Patients with Heartburn Refractory to Vonoprazan and Those Refractory to Proton Pump Inhibitors.	Dig Dis Sci. 2024 Jun;69(6):2132-2139.	Original article
240	Takahashi S, Okimoto K, Matsumura T, et al.	消化器内科	Characteristics of factors contributing to follow-up for suspect delayed bleeding after colorectal endoscopic submucosal dissection.	Gastrointest Endosc. 2024 Mar 20:S0016-5107(24)00182-2.	Original article
241	Okimoto K, Matsumura T, Fujie M, et al.	消化器内科	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer, using a disposable endoscope.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S 01):E881-E882.	Case report
242	Ohyama H, Hirotsu Y, Mochizuki H, et al.	消化器内科	Distinct Genomic Profiles of Two Small Malignant Lesions Associated With an Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm Co-occurring in a Patient.	Cureus. 2023 Dec 31;15(12):e51394.	Case report
243	Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, et al.	消化器内科	Novel self-assembling peptide for management of bleeding associated with colorectal angiodysplasia.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E412-E413.	Case report
244	Iwasaki M, Okimoto K, Akizue N, et al.	消化器内科	Underwater modified strip biopsy for colorectal polyp invading into the appendiceal orifice.	VideoGIE. 2024 Mar 26;9(7):344-347.	Case report
245	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Feasibility of Biliary Drainage Using a Novel Integrated Biliary Stent and Nasobiliary Drainage Catheter System for Acute Cholangitis.	Cureus. 2023 Apr 12;15(4):e37477.	Original article
246	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Efficacy and Safety of Electrohydraulic Lithotripsy Using Peroral Cholangioscopy under Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Guidance in Older Adults: A Single-Center Retrospective Study.	Medicina (Kaunas). 2023 Apr 19;59(4):795.	Original article
247	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Endoscopic Transpapillary Stenting for Malignant Hilar Biliary Stricture: Side-by-Side Placement versus Partial Stent-in-Stent Placement.	J Pers Med. 2023 May 14;13(5):831.	Original article
248	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Safety of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic solid mass in the elderly: A single-center retrospective study.	Geriatr Gerontol Int. 2023 Nov;23(11):836-841.	Original article
249	Kaneko T, Iwamura C, Kiuchi M, et al.	腫瘍内科	Amphiregulin-producing TH2 cells facilitate esophageal fibrosis of eosinophilic esophagitis.	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 Jun 4;3(3):100287.	Original article
250	Fujiwara K, Kondo T, Fujimoto K, et al.	腫瘍内科	Percutaneous Transhepatic Direct Portosystemic Shunt for a Patient With Budd-Chiari Syndrome Using a Balloon as a Target in a Stenotic Inferior Vena Cava.	Cureus. 2023 Sep 9;15(9):e44967.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
251	Fujiwara K, Kondo T, Fujimoto K, et al.	腫瘍内科	Use of disposable endoscope for variceal sclerotherapy.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S 01):E1248- E1249.	Case report
252	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	腫瘍内科	A Case of Primary Sclerosing Cholangitis Complicated With Liver Abscess Caused by Hyperviscous Klebsiella pneumoniae.	Cureus. 2023 Dec 29;15(12):e51277.	Case report
253	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Penetration of duodenal wall by proximal end of biliary straight plastic stent in a patient with ampullary carcinoma.	DEN Open. 2024 Jan 22;4(1):e337.	Case report
254	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	腫瘍内科	Parathyroid Hormone-Related Peptide-Producing Gallbladder Cancer Presenting With Humoral Hypercalcemia of Malignancy: A Case Report.	Cureus. 2024 Jan 25;16(1):e52951.	Case report
255	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	腫瘍内科	Asymptomatic Pneumoperitoneum With a Large Amount of Gas Appeared During Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage.	Cureus. 2024 Feb 16;16(2):e54330.	Case report
256	Kan M, Kouchi Y, Ohyama H, et al.	腫瘍内科	Genomic Analysis of Undifferentiated Carcinoma of the Pancreas with Squamous Differentiation: A Case Report.	Cureus. 2024 Feb 28;16(2):e55175.	Case report
257	Taida T, Ohta Y, Kato J, et al.	内視鏡センター	Treatment strategy changes for inflammatory bowel diseases in biologic era: results from a multicenter cohort in Japan, Far East 1000.	Sci Rep. 2023 Aug 21;13(1):13555.	Original article
258	Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, et al.	内視鏡センター	Utility of prophylactic clipping after colorectal cold snare polypectomy in patients on oral antithrombotic agents.	Gastrointest Endosc. 2024 May;99(5):826-829.e3.	Original article
259	Taida T, Horio R, Okimoto K, et al.	内視鏡センター	Endoscopic incision of malignant stenosis for the retrieval of retained capsule endoscope.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E127-E128.	Case report
260	Taida T, Kato J, Ishikawa K, et al.	内視鏡センター	Severe ulcerative colitis induced by COVID-19 vaccination.	Clin J Gastroenterol. 2024 Jun;17(3):447-450.	Case report
261	Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, et al.	内視鏡センター	Gel immersion EMR for hemorrhagic gastric hyperplastic polyp.	VideoGIE. 2024 Mar 26;9(7):324-325.	Case report
262	Shibamiya A, Miyamoto- Nagai Y, Koide S, et al.	血液内科	The pathogenetic significance of exhausted T cells in a mouse model of mature B cell neoplasms.	Cancer Immunol Immunother. 2023 Aug;72(8):2635-2648.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
263	Muto T, Walker CS, Agarwal P, et al.	血液内科	Inactivation of p53 provides a competitive advantage to del(5q) myelodysplastic syndrome hematopoietic stem cells during inflammation.	Haematologica. 2023 Oct 1;108(10):2715-2729.	Original Article
264	Rizq O, Mimura N, Oshima M, et al.	血液内科	Correction: UTX inactivation in germinal center B cells promotes the development of multiple myeloma with extramedullary disease	Leukemia. 2023 Sep;37(9):1895-1907.	Original Article
265	Honda D, Ohsawa I, Aizawa M, T	腎臓内科	Hereditary angioedema with an acute attack resolved after bone marrow transplantation for acute myeloid leukemia: a case report	Allergy Asthma Clin Immunol 2023 May 16;19(1):42.	Case report
266	Inoue H, Oya M, Aizawa M,	腎臓内科	Predicting dry weight change in Hemodialysis patients using machine learning.	BMC Nephrology volume 24, Article number: 196 (2023)	Original Article
267	Daisuke Honda , Philip Hei Li , Ankur Kumar Jindal,	腎臓内科	Uncovering the true burden of hereditary angioedema due to C1-inhibitor deficiency: A focus on the Asia-Pacific region.	J Allergy Clin Immunol 2024 Jan;153(1):42-54. doi: 10.1016/j.jaci.2023.09.039. Epub 2023 Oct 28.	Original Article
268	Honda D, Hide M, Fukuda T,	腎臓内科	Bertralstat for long-term prophylaxis of hereditary angioedema in Japan: Parts 2 and 3 of the randomized APeX-J Phase III trial.	World Allergy Organ J. 2024, 17(3):100882.	Original Article
269	Honda D ,Ohsawa I,Miyata T,	腎臓内科	Fibrin and fibrinogen degradation products/D-dimer ratio can be a useful marker for differentiating an acute attack of hereditary angioedema from thrombotic conditions.	Allergology International 73 (2024) 174-176	Original Article
270	Honda D, Okunaga I, Omote D	腎臓内科	Anti-Neuron-Derived Neurotrophic Factor Antibodies in Secondary Membranous Nephropathy Caused by Syphilis: A Case Report.	Am J Kidney Dis. 2024; 22: S0272-6386(24)00685-1.	Case report
271	Tanaka S, Etori K, Hattori K, et al.	アレルギー膠原病内科	CCR4 predicts the efficacy of abatacept in rheumatoid arthritis patients through the estimation of Th17 and Treg cell abundance.	Mod Rheumatol. 2023 Jul 31;road077. doi: 10.1093/mr/road077.	Original Article
272	Etori K, Tanaka S, Tamura J, et al.	アレルギー膠原病内科	Fibroblast growth factor receptor 1 as a potential marker of terminal effector peripheral T helper cells in rheumatoid arthritis patients.	Rheumatology (Oxford). 2023 Nov 2;62(11):3763-3769. doi: 10.1093/rheumatology/kead220.	Original Article
273	Suga K, Suto A, Tanaka S, et al.	アレルギー膠原病内科	TAp63, a methotrexate target in CD4+ T cells, suppresses Foxp3 expression and exacerbates autoimmune arthritis.	JCI Insight. 2023 May 22;8(10):e164778. doi: 10.1172/jci.insight.164778.	Original Article
274	Ida T, Ikeda K, Ohbe H, et al.	アレルギー膠原病内科	Early initiation of angiotensin-converting enzyme inhibitor in patients with scleroderma renal crisis: A nationwide inpatient database study.	Rheumatology (Oxford). 2023 Jul 17;kead343. doi: 10.1093/rheumatology/kead343.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
275	Furuta S, Nakagomi D, Kobayashi Y, et al.	アレルギー膠原病内科	LoVAS collaborators. Reduced-dose versus high-dose glucocorticoids added to rituximab on remission induction in ANCA-associated vasculitis: predefined 2-year follow-up study.	Ann Rheum Dis. 2024 Jan 2;83(1):96-102. doi: 10.1136/ard-2023-224343.	Original Article
276	Ida T, Furuta S, Fujiwara M, et al.	アレルギー膠原病内科	Short-term and long-term outcomes of patients with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis.	Rheumatology (Oxford). 2024 Jan 12;keae011. doi: 10.1093/rheumatology/keae011	Original Article
277	Kurihara S, Suzuki K, Yokota M, et al.	アレルギー膠原病内科	Eosinophils Contribute to Oral Tolerance via Induction of ROR γ t-Positive Antigen-Presenting Cells and ROR γ t-Positive Regulatory T Cells.	Biomolecules. 2024 Jan 10;14(1):89. doi: 10.3390/biom14010089.	Original Article
278	Kojima S, Iwamoto T, Kobayashi Y, et al.	アレルギー膠原病内科	Immunogenicity and influence on disease activity of recombinant zoster vaccine in patients with rheumatoid arthritis treated with DMARDs.	RMD Open. 2024 Feb 21;10(1):e003902. doi: 10.1136/rmdopen-2023-003902.	Original Article
279	Tanaka S, Yamamoto T, Iwata A, et al.	アレルギー膠原病内科	Single-cell RNA sequencing of submandibular gland reveals collagen type XV-positive fibroblasts as a disease-characterizing cell population of IgG4-related disease.	Arthritis Res Ther. 2024 Feb 20;26(1):55. doi: 10.1186/s13075-024-03289-7.	Original Article
280	Ida T, Furuta S, Takayama A, et al.	アレルギー膠原病内科	Efficacy and safety of dose escalation of tofacitinib in refractory anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis.	RMD Open. 2023 Jan;9(1):e002795. doi: 10.1136/rmdopen-2022-002795.	Case report
281	Suga K, Kiuchi M, Kageyama T, et al.	アレルギー膠原病内科	Single-cell RNA sequencing of peripheral blood mononuclear cells from Kimura disease patient successfully treated with dupilumab.	Allergol Int. 2023 Oct;72(4):610-613. doi: 10.1016/j.alit.2023.06.002. Epub 2023 Jun 20.	Case report
282	Iwata A, Toda Y, Furuya H, et al.	アレルギー膠原病内科	Group 2 innate lymphoid cells in human asthma.	Allergol Int. 2023 Apr;72(2):194-200. doi: 10.1016/j.alit.2022.12.001.	Review
283	Yasui M, Iwamoto T, Furuta S.	アレルギー膠原病内科	New therapies in anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis.	Curr Opin Rheumatol. 2024 Jan 1;36(1):61-68. doi: 10.1097/BOR.0000000000000979. Epub 2023 Sep 7.	Review
284	Kageyama T, Ito T, Tanaka S, et al.	アレルギー膠原病内科	Physiological and immunological barriers in the lung.	Semin Immunopathol. 2024 Mar 7. doi: 10.1007/s00281-024-01003-y.	Review
285	Yamagata H, Hayashi A, Yoshida Y, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Association of high proprotein convertase subtilisin/kexin type 9 antibody level with poor prognosis in patients with diabetes: a prospective study	Sci Rep. 2023 Apr ;13(1):5391.	Original Article
286	Maeda Y, Koshizaka M, Shoji M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Renal dysfunction, malignant neoplasms, atherosclerotic cardiovascular diseases, and sarcopenia as key outcomes observed in a three-year follow-up study using the Werner Syndrome Registry	Aging (Albany NY). 2023 May ;15(9):3273-3294.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
287	Koshizaka M, Ishibashi R, Ishikawa K, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Urinary alpha1 microglobulin level is useful for selecting sodium-glucose transporter 2 inhibitor or metformin for visceral fat reduction in patients with type 2 diabetes	Diabetes Obes Metab. 2023 Oct;25(10):3071-3075.	Letter
288	Ishibashi R, Hirayama K, Watanabe S, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Imeglimin-mediated glyceic control in maternally inherited deafness and diabetes	J Diabetes Investig. 2023 Dec;14(12):1419-1422.	Case report
289	Takemoto M, Hayashi A, Inaba Y, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Safety and effectiveness of metabolic surgery in older Japanese patients	Ann Gastroenterol Surg. 2023 May ;7(5):750-756.	Original Article
290	Kaneko H, Maezawa Y, Yamaguchi A, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Sex differences in symptom presentation and their impact on diagnostic accuracy in Werner syndrome	Geriatr Gerontol Int. 2024 Jan;24(1):161-167.	Original Article
291	Yamaguchi A, Koshizaka M, Ishibashi R, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Metabolomic analysis of serum samples from a clinical study on ipragliflozin and metformin treatment in Japanese patients with type 2 diabetes: Exploring human metabolites associated with visceral fat reduction	Pharmacotherapy. 2023 Dec;43(12):1317-1326.	Original Article
292	Namiki T, Takemoto M, Hayashi A, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Serum anti-PCK1 antibody levels are a prognostic factor for patients with diabetes mellitus	BMC Endocr Disord. 2023 Oct ;23(1):239.	Original Article
293	Sawada D, Kato H, Kaneko H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Senescence-associated inflammation and inhibition of adipogenesis in subcutaneous fat in Werner syndrome	Aging (Albany NY). 2023 Oct ;15(19):9948-9964.	Original Article
294	Nishino A, Adachi A, Koshizaka M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Case of Werner syndrome complicated with Sjögren's syndrome and Hashimoto's thyroiditis presenting sclerosing panniculitis-like symptoms	Geriatr Gerontol Int. 2024 Jan;24(1):173-174.	Letter
295	Maezawa Y, Endo Y, Kono S, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Weight loss improves inflammation by T helper 17 cells in an obese patient with psoriasis at high risk for cardiovascular events	J Diabetes Investig. 2023 Sep;14(9):1136-1139.	Case report
296	Yamamoto M, Maezawa Y, Shoji M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Novel technique of measuring diaphragm thickness using computed tomography and its potential for predicting prognosis of pneumonia	Eur J Intern Med. 2023:S0953-6205(23)00427-2	Letter
297	Ishibashi R, Inaba Y, Koshizaka M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of anti-vascular endothelial growth factor agents in patients with diabetic macular oedema with a history of anti-vascular endothelial growth factor agent use: A cohort study	Diabetes Obes Metab. 2024 Apr;26(4):1510-1518.	Original Article
298	Kondo H, Ono H, Hamano H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Insulin Sensitivity Initially Worsens but Later Improves with Aging in Male C57BL/6N Mice	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2023 Oct;78(10):1785-1792.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
299	Deguchi-Horiuchi H, Suzuki S, Lee EY, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内 科	Pancreatic beta-cell glutaminase 2 maintains glucose homeostasis under the condition of hyperglycaemia.	Sci Rep. 2023 May;13(1):7291.	Original Article
300	Suzuki S, Venkatesh D, Tanaka T, et al	糖尿病・代謝・内分泌内 科	GLS2 shapes ferroptosis in hepatocellular carcinoma.	Oncotarget. 2023 Oct;14:900-903.	Others
301	Takeuchi N, Imamura Y, Ishiwata K, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内 科	Cushing's syndrome in pregnancy in which laparoscopic adrenalectomy was safely performed by a retroperitoneal approach.	IJU Case Rep. 2023 Sep ;6(6):415-418.	Case report
302	Suzuki S, Takahashi N, Sugo M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内 科	Challenges in the diagnosis of the enigmatic primary adrenal leiomyosarcoma: two case reports and review of the literature.	BMC Endocr Disord. 2023 Dec ;23(1):276.	Review
303	Otsuka R, Morishita H, Iida K, et al.	食道・胃腸外科	Serum Versus Tissue SIRT1 as Potentially Valuable Biomarkers in Gastric Cancer	Anticancer Res. 2023 Apr; 43(4):1485-1491	Original Article
304	Kurata Y, Hayano K, Imai Y, et al.	食道・胃腸外科	Apparent diffusion coefficient by magnetic resonance cholangiopancreatography is useful for grading cholecystitis and surgery planning	Asian J Endosc Surg. 2023 Apr;16(2):173-180	Original Article
305	Arasawa T, Hiwasa T, Kagaya A, et al.	食道・胃腸外科	Analysis of patients with colorectal cancer shows a specific increase in serum anti-ING1 autoantibody levels	BMC Cancer. 2023 Apr 18;23(1):356 (オンライン)	Original Article
306	Yasunori Matsumoto, Masayuki Kano, Hideki Hayashi, et al,	食道・胃腸外科	Risk factors for perioperative liver damage in laparoscopic sleeve gastrectomy for morbid obesity	Chiba Medical Journal. 2023;99(0):27-37	Original Article
307	Yuri Nishioka, Yasunori Matsumoto, Hideki Hayashi, et al.	食道・胃腸外科	A case of an obese, infertile Japanese woman with type 2 diabetes mellitus achieving a favorable and safe pregnancy outcome after laparoscopic sleeve gastrectomy	Chiba Medical Journal. 2023;99(0):39-44	Case report
308	Nishioka Y, Matsumoto Y, Imanishi S, et al.	食道・胃腸外科	Small bowel adenocarcinomas with favorable prognoses by radical resection and adjuvant chemotherapy: a case series of five cases	Surg Case Rep. 2023 Oct 30;9(1):188 (オンライン)	Case report
309	Sasaki T, Matsumoto Y, Murakami, et al.	食道・胃腸外科	Gut microbiome can predict chemoradiotherapy efficacy in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2023 Oct;20(4):691-703	Original Article
310	Otsuka R, Hayashi H, Uesato M, et al.	食道・胃腸外科	Inflammatory and Nutritional Indices as Prognostic Markers in Elderly Patients With Gastric Cancer	Anticancer Res. 2023 Nov;43(11):5261-5267	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
311	Masaya Uesato, Yoshihiro Kurata, Yasunori Matsumoto, et al.	食道・胃腸外科	Use of inducible and limiting fluorescence in laparoscopic endoscopic cooperative surgery	VideoGIE. 2023 Sep 27;9(1):14-18	Original Article
312	Kurata Y, Ohira G, Hayano K, et al.	食道・胃腸外科	Peripherally inserted central catheter securement with cyanoacrylate glue and bloodstream infection: A retrospective cohort study	JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2024 Feb;48(2):215-223	Original Article
313	Teranaka R	乳腺外科	The impact of PIK3CA mutations and PTEN expression on the effect of neoadjuvant therapy for postmenopausal luminal breast cancer patients.	BMC Cancer 23: 384, 2023.	Original Article
314	Yu M	乳腺外科	Less necessity of adjuvant S-1 treatment in non-monarchE-eligible patients.	Cancer Medicine 12: 13193-91, 2023.	Original Article
315	Sakakibara J	乳腺外科	A review of MRI (CT)/US fusion imaging in treatment of breast cancer.	J Med Ultrason 50: 367-373, 2023.	Review
316	Teranaka R, Fujimoto H, Masuda T, et al.	乳腺外科	Ex vivo dual gene therapy using human adipocytes secreting anti-HER2 antibody on HER2-positive xenograft tumor models	Breast Cancer. 2023 Nov;30(6):1018-1027	Original Article
317	Noriyuki O, Kimihito T, Takao N, et al.	和漢診療科	Allyl isothiocyanate, an activator of TRPA1, increases gastric mucosal blood flow through calcitonin gene-related peptide and adrenomedullin in anesthetized rats.	Journal of Pharmacological Sciences	Original Article
318	Nishimura M, Tanaka T, Murata S, et al	検査部	Extension of bacterial rDNA sequencing for simultaneous methylation detection and its application in microflora analysis	Sci Rep. 2023 Apr 7;13(1):5731.	Original Article
319	Kitamura K, Hoshino T, Okabe A, et al	検査部	The Link of mRNA and rRNA Transcription by PUF60/FIR through TFIIF/P62 as a Novel Therapeutic Target for Cancer	Int J Mol Sci. 2023 Dec 11;24(24):17341.	Original Article
320	Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, et al	検査部	Primary Severe Pulmonary and Tricuspid Valve Regurgitation in an Adult Patient	CASE (Phila). 2024 Feb 5;8(3Part B):265-272.	Original Article
321	Ikuo Shimizu, Takashi Watari, Satoshi Watanuki, et al.	総合医療教育研修センター	Morbidity and Mortality Conferences in Internal Medicine Specialty Training in Japan: A Nationwide Cross-sectional Study	Internal Medicine. 2024 May 15; 63(10): 1361-1366.	Original Article
322	Ikuo Shimizu, Junichiro Mori, Aiga Yamauchi, et al.	総合医療教育研修センター	Progress testing of an objective structured clinical examination during undergraduate clinical clerkship: a mixed-methods pilot study	BMC Medical Education. 2023 Dec 14; 23(1): 958.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
323	Uemura T, Uchida M, Nakamura M, et al.	薬剤部	A search for acrolein scavengers among food components.	Amino Acids. 2023 Apr;55(4):509-518.	Original Article
324	Niibe Y, Suzuki T, Yamazaki S, et al.	薬剤部	Pharmacokinetics of vancomycin and meropenem during continuous online hemodiafiltration: A case report.	J Glob Antimicrob Resist. 2023 Jun;33:31-34.	Case report
325	Ishikawa M, Uchida M, Asakawa T, et al.	薬剤部	A novel method for predicting the unbound valproic acid concentration.	Drug Metab Pharmacokinet. 2023 Jun;50:100503.	Original Article
326	Uchida M, Higashimoto R, Hoshino T, et al.	薬剤部	Reversible suspension culture of human vascular smooth muscle cells using the functional biopolymer FP003.	In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2023 Aug;59(7):505-513.	Original Article
327	Shirane D, Tanaka H, Sakurai Y, et al.	薬剤部	Development of an Alcohol Dilution- Lyophilization Method for the Preparation of mRNA-LNPs with Improved Storage Stability.	Pharmaceutics. 2023 Jun 26;15(7):1819.	Original Article
328	Arai S, Ishikawa T, Arai K, et al.	薬剤部	Analysis of patients' thoughts and background factors influencing attitudes toward Deprescribing: interviews to obtain hints for highly satisfying and valid prescriptions.	J Pharm Health Care Sci. 2023 Dec 11;9(1):51.	Original Article

計328件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Honda D, Ohsawa I, Aizawa M,	腎臓内科	Multidisciplinary Prophylactic Strategies for Recurrence of Laryngeal Edema After Tooth Extraction in a Patient With Hereditary Angioedema: A Case Report.	Cureus 15(10): e46869. DOI 10.7759/cureus.46869 2023	Case report
2	Okunaga I, Makino S, Honda D,	腎臓内科	IgA-dominant infection-related glomerulonephritis with NAPr- positive tubulointerstitial nephritis	CEN Case Reports. 2023 Mar 15.doi: 10.1007/s13730-023- 00782-x.	Case report
~					

計2件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・手順書の主な内容:</p> <p>1. <u>千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程</u> 千葉大学医学部附属病院(以下「病院」という。)で行われる人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会(以下「委員会」という。)を置く。 一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正) 二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省告示第3号)</p> <p>2. <u>千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書</u> 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院(以下「本院」という。)及び1の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究(以下「多機関共同研究」という。)の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)(以下「指針」という。)等に基づいて審査する。 2 委員会は、研究責任者(多機関共同研究については研究代表者)から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書にて意見を述べるものとする。</p> <p>3. <u>千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会規程</u> 千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として、千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会を置く。 一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正) 二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)</p> <p>4. <u>千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会運営手順書</u> 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び1の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。 2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。</p> <p>5. <u>千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会規程</u> 千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、</p>	

次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正に研究を実施するため、倫理的観点及び科学的観点から、その研究に係る研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報を含めて中立的かつ公正に審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会を置く。

一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正)

二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)

6. 千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会運営手順書

- 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び一の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。
- 2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。

③ 倫理審査委員会の開催状況	臨床研究倫理審査委員会 年 11 回 生命倫理審査委員会 年 11 回 観察研究倫理審査委員会 年 11 回
----------------	--

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・規定の主な内容:</p> <p>1.国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程 国立大学法人千葉大学に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。 二 利益相反ガイドラインに関すること。 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。 五 その他利益相反に関する重要事項 <p>本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。</p> <p>2.千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する</p>	

事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓発活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学等を取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン(平成18年3月文部科学省)、厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest: COI)の管理に関する指針(平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定)並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条(管理の手続き)及び第5条(管理の実施)に従い、臨床研究実施者(必要に応じて臨床研究関係者)は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更等の対応を実施している。臨床研究法下で実施する試験は、提出された申告内容について事実確認を行い、必要に応じて利益相反委員会のマネジメントを受けている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 11 回
---------------------------------------	--------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究入門講義 3回 「臨床試験の法的枠組/臨床試験の手続き」「利益相反/研究倫理」「説明・同意/説明文書の作成」 ・倫理審査委員会研修会 2回 「個人情報保護」「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の動向」 ・臨床研究に関わる特別セミナー 1回 「臨床研究と利益相反(COI)管理:最近の動向」 	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
<ul style="list-style-type: none">● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
<ul style="list-style-type: none">● 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間
(到達目標)
<ul style="list-style-type: none">● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る● 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	149人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長 (教授)	37年	
堺田 恵美子	血液内科	科長 (准教授)	29年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長 (教授)	28年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長 (教授)	35年	
小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長 (准教授)	28年	
小林 欣夫	循環器内科	科長 (教授)	35年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長 (教授)	35年	
鈴木 拓児	呼吸器内科	科長 (教授)	29年	
桑原 聡	脳神経内科	科長 (教授)	39年	
生坂 政臣	総合診療科	科長 (教授)	38年	
平崎 能郎	和漢診療科	科長 (准教授)	26年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長 (教授)	35年	
瀧口 裕一	腫瘍内科	科長 (教授)	40年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長 (教授)	37年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長 (教授)	39年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 将之	肝胆膵外科	科長（教授）	35年	
長嶋 健	乳腺外科	科長（准教授）	36年	
鈴木 秀海	呼吸器外科	科長代理（准教授）	22年	
菱木 知郎	小児外科	科長（教授）	30年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長（教授）	40年	
田口 奈津子	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長代理（准教授）	34年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	36年	
大鳥 精司	整形外科	科長（教授）	29年	
馬場 隆之	眼科	科長（教授）	26年	
猪爪 隆史	皮膚科	科長（教授）	25年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長（教授）	34年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	32年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長（教授）	39年	
樋口 佳則	脳神経外科	科長（准教授）	31	
甲賀 かをり	婦人科・周産期母性科	科長（教授）	27年	
濱田 洋通	小児科	科長（教授）	33年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	35年	
中田 孝明	救急科	科長（教授）	24年	
大島 拓	集中治療部	部長（准教授）	25年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長（教授）	28年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（准教授）	37年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長（教授）	39年	
松下 一之	検査部	部長（准教授）	35年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科(部)長（教授）	21年	
加藤 順	内視鏡センター	センター長（准教授）	30年	
鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	科長（教授）	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

クリニカルスキルズセンターにおいて、急変対応シミュレーション研修を実施した。
Simam3G、ALSシミュレータ、分娩シミュレータNoelle、新生児蘇生人形を使用し、部署で起こりやすい症例について対応をトレーニングした。そのほか気道管理セミナー、ECMO研修、PFA研修などを実施した。
看護師だけでなく臨床工学技士、精神保健福祉士、臨床心理士、理学療法士、管理栄養士、救急救命士など多職種が参加した。

・研修の期間・実施回数

20回／年

・研修の参加人数

390名

その他、各病棟・部署にシミュレータや機器を貸し出した勉強会は15か所、計70回実施された。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

看護師の職位等に応じて、リーダーやマネジメントスキル、組織や地域の看護ニーズの変化に応じた看護管理の実際、また、高度急性期医療および特定機能病院としての役割を果たすための運営管理、労務管理についてレクチャーとワークを行う

・研修の期間・実施回数

リーダー関連研修：レベルⅡ6/6～10/6（3回）、レベルⅢ7/7～10/24（4回）

マネジメント関連研修：新任看護師長研修4/26～5/2（5回）

看護師長研修10/11～2/21（4回）

副看護師長研修10/10～12/11（2回）

・研修の参加人数

リーダー研修23名 看護師長研修52名 副看護師長研修78名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 横手 幸太郎	
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘	総務課長 荘野 典文
	薬剤部長 石井 伊都子	管理課長 渡辺 勉
	医療安全管理部長 相馬 孝博	経営企画課長 細川 敬貴
	感染制御部長 猪狩 英俊	研究推進課長 柴田 昌俊
	臨床工学センター長 中田 孝明	医事課長 高橋 実
	総合医療教育研修センター長 伊藤 彰一	医療サービス課長 矢代 健一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	研究推進課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課 医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 医療サービス課 薬剤部

に掲げる事項	規則第一条の十一第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課総合医療教育研修センター 医事課医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	管理課 医事課医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医事課医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援部患者相談
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	総務課総合医療教育研修センター 医事課医療安全室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課医療安全室
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 横手 幸太郎
閲覧担当者氏名	総務課長 荘野 典文 管理課長 渡辺 勉 経営企画課長 細川 敬貴 研究推進課長 柴田 昌俊 医事課長 高橋 実 医療サービス課長 矢代 健一
閲覧の求めに応じる場所	千葉大学医学部附属病院
閲覧の手続の概要 国立大学法人千葉大学は「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」(以下「情報公開法」)の適用を受けており、この法律に基づき、千葉大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。 開示請求者より法人文書の開示請求があった場合、該当法人文書の探索・特定を実施し、情報公開・個人情報保護委員会を開催し、開示又は不開示の決定を行い、その結果を請求者に通知し、法人文書の開示を実施することとなる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 病院長の責務 3. 医療安全に関する組織と取組 4. 医療安全管理のための職員研修 5. 医療事故の報告 6. 医療事故発生時の対応 7. 患者等への当該基本方針の閲覧 8. 患者からの相談への対応 9. その他の医療安全推進への対応 10. その他 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 前2号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回安全セミナー <ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月8日（LIVE講演） 令和5年6月16日～7月7日（eラーニング） ①求められる情報モラルとリテラシー ②ウィズコロナ時代に職員に求められること ③当院における抗菌薬適正使用の取り組み 	

- ④院内急変に正しく対応するために
- ⑤画像診断に係る安全管理
- ⑥声かけしましょう/されましょう-職場を良くする心理的安全性を向上させる第一歩-
- ・ BLS研修について

2. 第2回安全セミナー

令和5年12月6日 (LIVE講演)

令和5年12月21日～令和6年1月22日 (eラーニング)

- ①みんなで手指衛生 いま?なぜ?どうやって?
- ②薬剤耐性菌減少へのプロセスとアウトカムについて
- ③情報の保護・管理に関する最新情報
- ④新電子カルテシステム (C7) における医薬品アレルギー情報の取扱い変更点について
- ⑤医療機器点検の徹底
- ⑥・胃管の挿入について

・ ~安全の基本を復習しましょう~

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 医療上の問題

◆「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント報告システムにより速やかに報告され、部署リスクマネージャー及びゼネラルリスクマネージャーが内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する。

2. 分析

◆各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、KYTやPOAM・RCAなどの分析手法を活用し対策を検討している。リスクマネージャー研修で分析方法について講義をし、医療安全管理部のゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行っている。

3. 改善策の検討

◆マニュアル改正などはリスクマネジメント会議において多職種による検討を行い、医療の質・安全管理委員会で承認する。また、医療事故発生の原因調査及び原因究明は事例検討委員会において検討する。必要に応じ、関連部門と調整を行いシステムの見直しを行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 委員会, その他組織に関すること 3. 従業者に対する研修等 4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等への当該基本方針の閲覧 7. その他の院内感染対策推進のために必要な事項 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。 2. 院内感染予防対策の立案に関すること。 3. 院内感染発生時の対策に関すること。 4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。 5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。 6. その他院内感染予防対策に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回安全セミナー 令和5年6月16日～7月7日（e-ラーニング） 「ウィズコロナ時代に職員に求められること」 「当院における抗菌薬適正使用の取り組み」 2. 第2回安全セミナー 令和5年12月21日～令和6年1月22日（e-ラーニング） 「みんなで手指衛生 いま？なぜ？どうやって？」 「薬剤耐性菌減少へのプロセスとアウトカムについて」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICT活動 ICTラウンド （月間） ・ 月間耐性菌ラウンド（MRSA・ESBL・MDRP・CREを対象（月1回）と報告） （週間） ・ 耐性菌チェック（分離菌報告） ・ 環境チェック 	

・清掃・廃棄物ラウンド（感染制御部・事務職員・清掃業者でラウンド（月2回）と報告）

2. AST活動

- ・血液培養陽性患者のモニター
- ・診療コンサルテーション報告
- ・抗菌薬の許可制
- ・特定薬剤使用状況報告
- ・ASTラウンド

3. 職員感染対策

- ・針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
- ・職員の抗体検査と予防接種の実施
- ・病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種

4. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック

- ・カテーテル関連血流感染（全部署及び血液内科）
- ・手術部位感染（10診療科17手技）
- ・手指衛生サーベイランス（払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法）
- ・J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）を活用した他医療機関比較の充実

5. 感染対策向上加算に関する地域連携活動

- ・感染対策向上加算に係る相互チェックの実施（連携医療機関と相互に年1回ずつ）
- ・感染対策向上加算に係るカンファレンスの開催（連携医療機関と年4回）
- ・指導強化加算に係る院内ラウンド（年間4施設に直接訪問して指導を行う）
- ・院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動（研修会・アウトブレイク支援・感染対策相談等）

6. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策

- ・新型コロナウイルス感染症クラスター発生から終息までの対応
- ・NICU・GCUにおけるMRSAのアウトブレイク対応

7. 手指衛生遵守率向上のための取組み

- ・手指消毒剤個人携帯の推奨
- ・手指衛生啓発活動
- ・手指衛生サーベイランスの結果報告と手指衛生指導等

8. 国公立大学附属病院感染対策協議会における活動（感染対策チェック）

- ・国公立大学感染対策協議会の指示により自己チェックのみ実施し、自施設の改善活動の実施
- ・国公立大学感染対策協議会（総会）参加

9. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・新型コロナウイルス感染症対策本部の機能を移管し、業務内容を再分配の上で感染管理委員会をと感染制御部を主軸とし、院内への情報共有や感染対策を強化し対応した
- ・行政の会議委員として会議・連絡会等に参加

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 新規採用者ガイダンス eラーニング 「医薬品安全管理（麻薬取り扱い含む）」</p> <p>2. 新規採用者ガイダンス（研修医向け） 「抗がん薬の取り扱いについて」</p> <p>3. 第2回医療安全セミナー 令和5年12月6日（LIVE講演） 令和5年12月21日～令和6年1月22日（eラーニング） 新電子カルテシステム（C7）における医薬品アレルギー情報の取扱い変更点について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ 有・無 ）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1. 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施</p> <p>2. 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、嚴重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施</p> <p>3. 患者に対する安全な医薬品供給のための処方、調剤、交付、指示出し・指示受け、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施</p> <p>4. 医薬品の情報の収集及び提供の実施</p> <p>5. 医薬品の使用に関する教育・研修の実施</p> <p>6. 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 視神経脊髄炎、重症筋無力症、発作性夜間ヘモグロビン尿症などの抗補体薬投与を予定された、あるいは投与された患者に対するB型髄膜炎菌感染予防のための国内未承認医薬品ベクセロ（B型髄膜炎菌ワクチン）の使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。 また、使用後の評価も徹底する運用としている。 その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者（医薬品情報室長）から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 14 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる下記の医療機器に関して、定期的に研修を実施している。 ・ 人工呼吸器（2回） ・ 閉鎖式保育器（2回） ・ 血液浄化装置（2回） ・ 人工心肺及び補助循環装置（2回） ・ 除細動器（2回） ・ 新規導入の機器（ 回） ※エラーニングによるものを含む。 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（年2回） ・ 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（年2回） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定（ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）、当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医療安全管理に関する基本方針」第3の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副病院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定められている。</p> <p>また、医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （10名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。</p> <p>医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。</p> <p>薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種：薬剤師（医薬品情報室長）） （所属：薬剤部，職種：薬剤師（GRM））</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p>	

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
 :

- ・診療情報管理委員会において、説明・同意文書の新規作成・更新の際に「病院として定めた必要項目が記載されているか」について確認を行い、承認された文書のみ使用する。
- ・診療情報管理士が、各診療科が説明に使用する文書を適切に使用しているか、文書を用いて説明を行った際に、診療録にも説明時の状況や患者の反応の記載がなされているか等、遵守状況を確認（監査）し、説明書の追記が必要な部分に追記がない、診療録に説明時の状況等の記載がないなど不適切な場合は指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>千葉大学医学部附属病院診療情報管理規程に基づき、診療録等の記載内容の確認および監査を行っている。</p> <p>入院基本情報、入院診療計画、医療行為等の説明と同意、経過記録、退院時サマリー等を対象とした多職種監査を定期的実施し、その結果を診療情報管理委員会に報告している。また、監査結果は、診療情報責任者ならびに診療情報管理ワーキンググループ委員に対して報告し、記載方法等の指導をしている。</p> <p>監査結果の報告を受けた診療情報責任者は、速やかに対策を講じ、その結果を診療情報管理責任者へ報告している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（23）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（13）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の質・安全管理委員会に係る事務 2. 事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はとの家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要 	

な指導

3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整
4. 医療に係る安全の確保のための対策の推進
5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング
6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認
7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録
8. 医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録
9. 医療安全に係る取り組み及びその評価を行うカンファレンスの実施
10. その他医療安全の推進に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

本院において高難度新規医療技術を用いて実施する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて施行されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬品等

が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 465 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 53 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
 2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
 3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ （病院名：鹿児島大学病院） ・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ （病院名：山口大学医学部附属病院） ・無）
- ・技術的助言の実施状況

未承認新規医薬品の使用状況について、モニタリング体制やその方法についての見直しについて、助言を受けた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者支援センター内の患者相談窓口もしくは電話にて受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部及び関係者に報告と対応を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

1. 第1回安全セミナー

令和5年6月8日 (LIVE 講演)
 令和5年6月16日～7月7日 (eラーニング)

- ①求められる情報モラルとリテラシー
- ②ウィズコロナ時代に職員に求められること
- ③当院における抗菌薬適正使用の取り組み
- ④院内急変に正しく対応するために
- ⑤画像診断に係る安全管理
- ⑥・声かけしましょう/されましょう-職場を良くする心理的安全性を向上させる第一歩-
 ・BLS 研修について

2. 第2回安全セミナー
 令和5年12月6日 (LIVE 講演)
 令和5年12月21日～令和6年1月22日 (eラーニング)

- ①みんなで手指衛生 いま?なぜ?どうやって?
- ②薬剤耐性菌減少へのプロセスとアウトカムについて
- ③情報の保護・管理に関する最新情報
- ④新電子カルテシステム (C7) における医薬品アレルギー情報の取扱い変更点について
- ⑤医療機器点検の徹底
- ⑥・胃管の挿入について
 ・～安全の基本を復習しましょう～

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
・ 研修の実施状況	
・ 管理者	: 令和6年2月26日 2023年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催
・ 医療安全管理責任者	: 令和5年12月4日 2023年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催
・ 医薬品安全管理責任者	: 令和6年1月26日 2023年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催
・ 医療機器安全管理責任者	: 令和5年12月15日 2023年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善

のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価「一般病院3」3rdG:Ver2.0を受審し2022年11月4日に認定された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院公式ホームページで公開している。

・評価を踏まえ講じた措置

①説明同意書について管理部署の承認を得た書式を使用する仕組みを作るとともに、使用状況を把握するためのカルテ監査体制を構築した。

②手術部位感染サーベイランスの対象診療科を拡大し、術後感染の発生を評価／分析して改善するサイクルを構築した。

③コロナ禍で中断されていたBLS訓練を再開し受講歴の一元的管理を開始した。

④診療業務に関するマニュアル等の文書一元管理を開始した。

⑤病棟において注射用抗がん薬を投与する際、投与前・中・後の患者の状態や反応等の観察記録を残す仕組みを構築した。

⑥病棟において抗がん薬投与に関わる際、職員の曝露対策として個人防護服等の着用ルールが遵守されるように研修を実施し、定着させるための定期的なラウンド評価を開始した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 - 一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力
 - 二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
本学ホームページ及び本院ホームページにて選出基準を掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 本院ホームページにて掲載している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
中谷 晴昭	千葉大学理事	○	学長が指名する理事 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第1号委員)	有
丸山 浩	千葉大学理事・事務局長		学長が指名する理事 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第1号委員)	有
三木 隆司	千葉大学大学院医学研究院院長		役職指定 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第2号委員)	有
本橋 新一郎	千葉大学大学院医学研究院教授		医学研究院から推薦された教員 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第3号委員)	有
大塚 将之	千葉大学大学院医学研究院教授		医学部附属病院から推薦された教員又は職員 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第4号委員)	有
入江 康文	千葉県医師会会長		学長が委嘱する学外の有識者 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第5号委員) 千葉県医師会会長として、医学、医療について豊富な経験と高い識見を有している。	無
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長		学長が委嘱する学外の有識者 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第5号委員) 医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として、患者目線での医療提供や医療安全の向上のために幅広く活動し、豊富な経験と高い識見を有している。	無
山崎 晋一郎	千葉県病院局長		学長が委嘱する学外の有識者 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第5号委員) 千葉県行政の担当責任者として、	無

			千葉県の医療行政について豊富な経験と高い識見を有している。	
箭内 博子	千葉大学医学部附属病院看護部長		学長が必要と認める者 (千葉大学部局長選考等規程第4条の2第2項第6号委員)	有

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> 一 病院規程その他規程等の制定改廃に関する事項 二 病院に関する将来計画，中期目標及び年度計画に関する事項 三 病院に関する予算の作成及び決算に関する事項 四 病院，診療科，中央診療施設その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 五 執行部会において必要と判断された重要事項 六 その他病院の管理・運営・診療に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 議事要録を院内ホームページへ掲載している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページへ掲載している。 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
横手 幸太郎	○	医師	教授
大塚 将之		医師	教授
加藤 直也		医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
大鳥 精司		医師	教授
花澤 豊行		医師	教授
花岡 英紀		医師	教授
中田 孝明		医師	教授
鈴木 拓児		医師	教授
石井 伊都子		薬剤師	教授
箭内 博子		看護師	看護部長
相馬 孝博		医師	教授
井上 貴裕		事務職員	特任教授
小山田 享史		事務職員	事務部長
猪狩 英俊		医師	教授

伊藤 彰一		医師	教授
金田 篤史		医師	教授
堺田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
小野 啓		医師	准教授
平崎 能郎		医師	准教授
瀧口 裕一		医師	教授
松宮 護郎		医師	教授
松原 久裕		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
鈴木 秀海		医師	准教授
田口 奈津子		医師	准教授
市川 智彦		医師	教授
馬場 隆之		医師	教授
猪爪 隆史		医師	教授
鵜澤 一弘		医師	教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
伊豫 雅臣		医師	教授
樋口 佳則		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
甲賀 かをり		医師	教授
濱田 洋通		医師	教授
菱木 知郎		医師	教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
生坂 政臣		医師	教授
松下 一之		医師	准教授
大島 拓		医師	准教授
加藤 順		医師	准教授
田島 洋佑		医師	助教
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
藤本 肇		医師	特任教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
竹内 公一		医師	特任准教授
本橋 新一郎		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
花輪 道子		技術職員	特任教授
勝野 達郎		医師	准教授
澁谷 潔		医師	特任教授
諏訪園 靖		医師	教授
清野 宏		医師	特任教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。
千葉大会計規程を本学ホームページへ掲載している。
- ・ 規程の主な内容
 - <病院規程>
 - 一 本院の目的
 - 二 病院長の権限 (診療科長等の任命・解任権限など)
 - 三 本院の組織
 - 四 役職者等の任期及び業務内容等
 - <会計規程>
 - 一 会計に関する目的、概要等
 - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
 - 三 契約・決算
 - 四 予算管理責任者の権限 (予算配分、予算執行)等
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
 - <副病院長>
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。
副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。
 - <院長補佐>
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。
 - <企画スタッフ>
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - <人事>
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。
科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。
 - <研修>
国立大学病院長会議が主催する病院経営次世代リーダー養成塾に、病院長、副病院長等が参加し、病院経営についての講義聴講、及び意見交換を行った。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 一 医療に係る安全管理に関すること。 二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。 三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	東京医科歯科大学にて、教授、副学長、病院長を歴任し、医師及び研究者として医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するとともに、病院管理の経験を有するため	無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社 薬事部長		製薬企業にて、長年、医薬品・医療機器の研究開発業務に従事され、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1

藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		国立がんセンター中央病院にて、臨床検査部長、臨床試験・治験開発部長、副院長、執行役員／企画戦略局長を歴任され、現職では、医薬品や医療機器の承認審査及び安全対策に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団参事		製薬企業にて、長年、医薬品の研究開発業務に従事され、現職では、医薬品医療機器の品質、有効性及び安全性の確保及び向上のため、レギュラトリーサイエンスの推進活動に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
山崎 晋一郎	千葉県病院事業管理者		国及び地方公共団体にて、長年、厚生労働行政に従事され、法律及び医療安全に関する広い識見を有するとともに、千葉県病院事業管理者として、病院管理の経験を有するため	無	1
植村 武志	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部千葉大玄鼻イノベーションプラザチーフインキュベーションマネージャー		千葉大学玄鼻キャンパス内のインキュベーション施設において、先端医療分野、医工連携分野の研究成果を活用した起業や創業活動、中小企業の新事業展開等の総合的支援に従事され、臨床研究や	無	2

			法律に関する識見を有するとともに、医療を受ける者の立場から意見を述べるができるため		
--	--	--	---	--	--

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
千葉大学監事監査において、管理者の業務が法令に適合することを確認・指導する。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
本学ホームページにて、関係規程を掲載している。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年 14 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年 9 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
ポスター、院内ホームページの掲示及びマニュアルを配布して周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要：</p> <p>病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。</p> <p>また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p>	